

平成29年度 福知山公立大学
市民学習・キャリア支援センター
事業報告書

市民学習・キャリア支援センター事業
平成29年度 報告書

目次

福知山公立大学市民学習・キャリア支援センター概要	2
■分野別公開講座	
第1回公開講座「企業経営分野」の理論と実践をお伝えします	
ヒット商品の極意	3
「変貌する国際物流と舞鶴港の可能性」	5
第2回公開講座「公共経営」分野の理論と実践をお伝えします	
『「みんな」でつくる地域の未来』	7
「魅力と活力の向上を目指したまちづくり～景観を切り口に～」	9
第3回公開講座「観光経営」分野の理論と実践をお伝えします	
「天職のヒントを探す旅～天職観光の時代～」	12
「訪日客を受け入れる農家民宿の経営」	14
第4回公開講座「医療福祉経営」分野の理論と実践をお伝えします	
日本の介護保険を世界に	
～WHO(世界保健機関)プロジェクトの目指すもの～	16
医療情報分野の標準化について	18
第5回公開講座「教養」分野の理論と実践をお伝えします	
マスメディアの未来—拡張現実—	20
■福知山公立大学公開講座	
井口学長塾	
岩波新書『シリーズ日本近現代史』【全10巻】を読む	23
■地域創生セミナー	
第1回地域創生セミナー	
「ローカル」を活かした事業展開と雇用創出	25
第2回地域創生セミナー	
学生が参画する多世代交流型自治活動を考える	28
第3回地域創生セミナー	
高齢ドライバーによる交通事故の実態と運転行動	31
第4回地域創生セミナー	
自然災害とオペレーションズ・リサーチ	32
■子ども・若者学び支援事業	
児童館国際食文化交流事業	37
富野副学長の天文教室 美しい宇宙のことをもっと知ろう	43
■高齢者大学校 北近畿校の一般講座	
京都高齢者大学校北近畿校	44
■まちびとゼミ	
おもろい書道	45
福知山の歴史文化に触れる～学ぶ！習う！踊る！	
福知山踊りとドッコイセまつり	47
■社会人・キャリア支援事業	
まちづくりの理論と手法～知恵を集める伝える方法	49



「市民学習・キャリア支援センター」は福知山市民及び北近畿地域住民に向けて、大学の教職員・学生などの資源を活用して生涯学習とキャリア形成につながる学習の機会を広く地域社会に提供することを目的として設置されています。

開学2年目の今年度は次の3つの目的をもとに活動を行いました。

- ① 福知山公立大学の有する「知」やネットワークを活かした学びの場を設け、市民力の育成を通して持続可能な地域社会形成に貢献する。
- ② 地域内外のステークホルダーが学び・出会い・交流する場を設けることで、問題解決や未来創造を実践するネットワーク形成の契機とする。
- ③ 開学したばかりの福知山公立大学のコンセプトや新たに加わった教員の専門を市民に伝えることで、公立大学への理解を深め、本学の支援者（ファン）となる市民を増やす。

具体的な事業としては、教員の専門性やネットワーク、大学施設を活用した市民に開かれた学びの場づくりとして、対象者や目的から次の6つのカテゴリーを設けて実施しました。

1. 公開講座：広く市民の対象とし本学教員の専門性や教員のネットワークを活用した講座として、分野別講座と井口学長塾を開講しました。
2. 地域創生セミナー・研究会：地域課題の解決や人材育成を目的にセミナーと研究会を開催しました。
3. 子ども・若者学び支援：小学生、中学生、高校生、若者を対象とした学びの場づくりとして、児童館国際交流会と天文教室を開催しました。
4. リカレント教育・学び直し支援：学校法人関西文理総合学園と連携して、本学を会場に京都高齢者大学校北近畿校を開講しました。開校記念講座を3回、9月から時事講座、歴史講座、健康講座の3つの講座を開講しました。
5. まちびとゼミ：市民が講師となり学びの場をつくり、市民と学生が共に学ぶ機会として、書道と福知山踊りをテーマにした講座を開催しました。
6. 社会人のキャリア支援：社会人のキャリア形成を目的に、まちづくり分野でのワークショップの理論と手法を学ぶ計3回の講座を開催しました。

分野別公開講座

(趣旨)

本講座は本学の有する「知」を広く福知山市民や北近畿の方々に提供し、持続可能な地域社会形成の一助とするとともに、本学教員と市民が交流を図り、大学の活動を幅広くする周知することを目的としています。

今年度は、大学の研究分野を市民に伝えることと多くの人々の学びのニーズに応えるため、「企業系」、「公共系」、「観光系」、「医療系」、「教養系」の各分野の講座を開講しました。

第1回公開講座 「企業経営」分野の理論と実践をお伝えします

第1部 「ヒット商品の極意」

- ◆開催日時：5月22日(月) 18:30～20:30 ◆会場・場所：市民交流プラザふくちやま会議室 3-3
- ◆講演者：福知山公立大学地域経営学部 教授 平野 真
- ◆司会者：福知山公立大学地域経営学部 助教 張 明軍

【概要】

世の中でヒットする商品はどのようにして生まれるのか、商品をヒットさせるコツについて解説しました。「商品がヒットする」とは、多くの顧客がその商品を欲しがるといふことに他なりません。それはとりもなおさず、その商品が今までにない新たな価値を提案しているからであり、その価値を認めた顧客が創出されることによって、多くの人々がその商品を買うという行動にでることにほかなりません。言われてみれば当たり前のことですが、商品をモノとしてではなく、そこに込められた「価値の提案」として試みることにより、様々なヒントが得られることを解説しました。またその延長として、地域の特産物を売り出すには、どのような点に留意すべきかを、多くの事例をもとに解説しました。

【講演内容】

(1) モノを売るという行為とは？買う人は何を買っているのか？

商売上手な人々というのは、人の気が付かないところで様々な工夫をしています。コンビニの蛍光灯の向きから始まって、商品の配置、並べ方、見せ方、POPの書き方、商品を照らす照明の種類、明るさ、棚の作り方、通路の作り方、店のインテリア、小さなことまで全てにおいていかにしてモノを売るか、という計算のもとに工夫をしているのが普通です。これらのことは、一見、売っているモノとは関係ないように思いますが、実は人がモノを買うということは、こうした細かい工夫すべてに対してお金を払う行為だということです。むしろ、モノに付随した、こうした見せ方や情報、店側の心配り、そしてサービスに人はお金を払っているということに気づかされるのです。

このことを裏返していえば、人はモノ以外のこと、すなわちそこで提案されている様々な目に見えない「価値」にお金を払っているということです。逆に言えば、商品売ることを通じて、顧客にどんな「価値の提案」をするか、という目で商売(ビジネス)を考えること、新たな価値の提案をすれば、その価値を認める人々が新たな顧客として創造され、つまり市場が開拓され、モノが売れていくということなのです。アイスクリームやクレラップなどのコマーシャルの話为例にとりて、あるいはセメ



ントを売る話、お札の自動販売機の話など、様々な事例を通して、こうしたヒット商品が生まれていくメカニズムを説明しました。

(2) 地域の特産物をいかに売っていくか？

上記のことを踏まえて考えれば、地域の特産物をヒットさせるのも、基本的には同じだということがわかります。「わが町の特産物はこんなに素晴らしいのだ」という作り手の自分勝手な思い込みからは、特産物も売れてはいきません。その特産物を通して、どんな価値を買い手に提案できるのか、そうした目で自分の商品を見直して見る必要があります。

例として、高知県のカリスマ・デザイナー梅原真さんの出した数々のヒット商品をご紹介します。単にカツオを売るのではなく、大企業が網で大量に採った価格の安い商品ではなく、値は少々はるとしても、小型漁船で1尾ずつ釣竿で傷がつかないように丁寧に釣り上げたカツオを、昔から一番美味しい食べ方を知っている漁師の料理方法と同じように、わらで焼いたたたきのカツオですよ、つまりあなたに地元の漁師だけが知っている一番美味しいカツオを一番美味しい食べ方で提供しますよ、という特別の「価値」をつけて売ることにより、驚異的なヒット商品になったという話はその一例です。ここでは、「漁師が釣って、漁師が焼いた」というキャッチ・コピーと、墨絵や木版画の素朴なデザインのパッケージが、その「価値」を明確に伝えることで、具体的な商品づくりがなされています。こうしたキャッチ・コピーやパッケージ・デザインといった付帯的なものが、実はそこで提供される「価値」を実体化する重要な道具になっているわけです。このように、特産物の売り方でも、そこにどのような価値を提案しているのか、という明確な意図がなければ、ヒット商品を作ることは難しいのです。

講演の中では、こうしたことに気づき、その土地の産物特有の価値を明確に買い手に伝えることで、ヒット商品を生み出し、豊かになった数々の産地の事例を紹介しました。高知県の馬路村のゆずの加工品、島根県のサザエ・カレー、高知県の四万十ドラマのひのきぶしなどを例にとりながら、そこではどのようにして提案する「価値」を作っていたのか、ブランドづくりの工夫なども紹介しました。そう、ブランドも重要な「価値」であり、地方ブランドの創造は、いまや多くの地域にとって最も重要な課題のひとつでもあるでしょう。

地域が貧しさから這い上がり、産業や地域社会を活性化していくために、何をすべきなのか、そういった観点からもすべきことを具体的に解説したつもりです。



分野別公開講座

第1回公開講座 「企業経営」分野の理論と実践をお伝えします

第2部 「変貌する国際物流と舞鶴港の可能性」

- ◆開催日時：5月22日(月) 18:30～20:30 ◆会場・場所：市民交流プラザふくちやま会議室 3-3
- ◆講演者：福知山公立大学地域経営学部 教授 篠原 正人
- ◆司会者：福知山公立大学地域経営学部 助教 張 明軍

【概要】

私はこれまで国際物流と港湾政策を研究の中心にして参りました。わが国の輸出入量の内、何と99.7パーセントは船での輸送です。そして貿易相手としてアジアの重要性はますます高まっています。このように重要な役割を果たす海運と北近畿の玄関口舞鶴港を、皆さんが身近に感じて頂くことが私のお話の目的です。

舞鶴港は日本の港湾の中でも小さな存在ですが、今後京都・滋賀・大阪・兵庫の日本海側の玄関口として大きな役割を果たせると思います。国際物流の面ではこれまで阪神港のみが注目されてきましたが、将来ロシア、朝鮮半島、中国東北地方との交易が拡大する可能性を考えると、舞鶴港の活用度の高まりが確実と言えましょう。

その意味で、北近畿にもっと企業立地を促し、舞鶴港を経由した新たなサプライチェーンを構築するために関係者の連携が必要です。

人流の面では、舞鶴港は日本海側の重要な拠点となりました。中国や東南アジアの莫大な人口を背景に、今後クルーズ人口はますます増えます。官民を挙げて北近畿を観光で振興することを主眼に、先進的なマーケティングを展開しましょう。

【講演内容】

わが国が高度経済成長を続けていたころ、日本から欧米への輸出が世界の物流の中心を占めていました。しかし1990年代から、中国の改革開放政策への移行に伴い、先進国の生産拠点は中国を始めとした新興国に移転するようになりました。そのため国際物流は、現在アジア発が主軸となっています。つまり、世界経済はアジアを中心に動き始めているわけです。

舞鶴港は、かつては海軍の拠点として、また戦後は大陸からの引揚港として重要な役割を果たしてきました。現在も国防の重要拠点としての役割は不変です。しかしそれに加えて更に重要な役割を担うことができることを認識しています。それは物流拠点としての役割と、クルーズ観光の拠点という二つの点です。

これまでも国際・国内物流に資するために埠頭が整備されてきましたが、太平洋岸の港湾に比べて、果たしてきた役割は大きくはありませんでした。しかし将来の可能性は大きく広がっています。

特にロシア、朝鮮半島、中国などを対象として、京都・滋賀・大阪・兵庫の日本海側玄関口としてフェリー・RORO船を駆使した海上輸送網を構築できます。

かつて北前船が日本海を疾走して多くの港町の経済を盛り上げたように、フェリーを駆使した国内の海上輸送も有望です。環境保護のため、またドライバー不足に対応するために、海運は今後ますます重要な輸送手段となります。

福知山市や綾部市は立派に産業集積がなされていますが、舞鶴港を活用することを念頭に、さらなる



舞鶴港：国際埠頭

企業立地によって経済を振興することが可能でしょう。

また、自然の良港として静穏度の高い舞鶴港は、クルーズ船の寄港地としても有望です。北近畿は多くの観光資源に恵まれています。クルーズ船の寄港が北近畿経済を盛り上げる起爆剤となるよう、マーケティング手法を駆使する必要があります。

福知山公立大学が実施したクルーズ船客動向調査によると、訪問先としては天橋立と伊根が圧倒的となっています。舞鶴市内では赤れんがパーク、

引上げ記念館、五老スカイタワー、とれとれセンター、商店街などが挙げられました。また、アジアからの船客には、大手スーパーでの買い物が人気です。しかし、個人で動き回る人たちの消費額が一人平均 4,400 円と、あまり多くないことが判明しました。各訪問先の滞在時間の短さも課題です。各地域が体験型の企画を工夫して独自の魅力づくりをするとともに、それを SNS などを通じて多言語で発信することが求められます。

福知山市は、船客の訪問先としてはまだ認知度が高いとは言えません。地方創生政策を活用するとともに、福知山城や商店街のグルメを「売り」にして、地元経済の底上げ戦略を構築するべきです。

私は長期間の欧州滞在中に多くの港を視察してきました。オランダ、ベルギー、フランス、ドイツ、北欧など、クルーズ観光の先例として欧州の港湾都市の振興策が参考になりますので、今後様々な機会をとらえて皆様のお役に立てればと考えております。

また、学生の就職先として、物流関係や港湾振興に関する職場も、大いにあり得るかなと考えておりますので、北近畿の皆様のご指導をよろしく願いいたします。



舞鶴港：「飛鳥II 寄港」



フィンランド・ヘルシンキ港

分野別公開講座

第2回公開講座 「公共経営」分野の理論と実践をお伝えします

第1部 『「みんな」でつくる地域の未来』 ～総合計画とフューチャーデザイン～

- ◆開催日時：7月18日(火) 18:30～20:30 ◆会場・場所：市民交流プラザふくちやま会議室 3-3
- ◆講演者：福知山公立大学地域経営学部 准教授 杉岡 秀紀
- ◆司会者：福知山公立大学地域経営学部 教授 谷口 知弘

(概要)

(第1部概要)

これまで地方自治体では、1969年の地方自治法の改定に基づき、全ての自治体で総合計画（正確には基本構想）を策定し、自治体政策を実施してきました。しかし、2011年の自治法の改正により策定義務がなくなり、他方で地方創生の文脈で「まち・ひと・しごと創生総合戦略」が実施義務化されるということが起きています。この流れを我々はどう理解すれば良いのか、今回はフューチャーデザインという概念とその導入事例を紹介しました。

(講師プロフィール)

1980年、奈良県生まれ。2003年同志社大学経済学部卒業、2007年同大学大学院総合政策科学研究科博士前期課程修了。2009年同博士後期課程退学。専門は、公共政策、地方自治論、地域公共人材論、大学まちづくり論、NPO論、大学評価論。大学時代から環境問題、まちづくりに関心を持ち、2003年にまちづくりNPO「きゅうたなべ倶楽部」を主宰（発起人）。2007年からは、いったん地域から離れ、霞ヶ関（内閣官房）へ。内閣官房行政改革推進本部事務局にて、社会保険庁改革に従事。同志社大学政策学部嘱託講師（2009～2014）、一般財団法人「地域公共人材開発機構」事務局総括（2009～2012）、京都府立大学公共政策学部講師・地域連携センター副センター長（2012～2016）を経て、2016年秋より福知山公立大学地域経営学部准教授。京都府立大学京都政策研究センター特任准教授。主な著書に、『地域力再生の政策学』（ミネルヴァ書房、2010年、共著）、『地域貢献としての大学シンクタンク』（公人の友社、2013年、編著）、『地域公共人材をつくる』（法律文化社、2014年、共著）、『地方自治を問いなおす』（法律文化社、2014年、共著）、『もう一つの自治体行革』（公人の友社、2014年、編著）、『持続可能な地域実現と大学の役割』（日本評論社、2014年、共著）、『地域力再生とプロボノ』（公人の友社、2015年、編著）、『地域創生の最前線』（公人の友社、2016年、編著）、『自治体政策への提言』（北樹出版、2016年、共著）、『「みんな」でつくる地域の未来』（公人の友社、2017年、共著）、『合併しなかった自治体の実際』（公人の友社、2017、編著）など。

(詳細・内容)

【フューチャーデザインとは？】

フューチャーデザイン（以下、FD）とは「すべての人々、つまり、現世代ばかりではなく将来世代を含む世代を念頭におき、彼らの幸福を熟慮する」という考え方で、具体的には「意思決定やビジョンづくりに望む「仮想将来世代」を将来世代のステークホルダーとして現代に仮想的に創出し、現世代と仮想将来世代との間の交渉・合意形成を通じた意思決定やビジョンづくり」を行うことです。ここでの最大の発見は「仮想将来世代」という概念にあります。ただし、この概念そのものは実は新しい考え方



ではありません。わが国にFDを紹介した西條辰義によれば、ルーツはアメリカのイロコイ連邦の憲法「偉大な結束法」にあり、イロコイ・インディアンは、重要な意思決定をする際に、七世代後の人々になりきって考えていたといいます。つまり、その当時から「仮想将来世代」を創り出し、意思決定をしていました。たとえばある地域に大きな山があるとします。現世代としてはこの山を切り出し、そこに住居や店舗を造った方が地域の経済が潤うと考えます。しかし、イロコイ・インディアンは「この山をみんな切り出したら現世代は億万長者になれるかもしれませんが、将来世代から見たら、自然がなくなり、まちのアイデンティティもなくなるのではないか」と考えます。そこでこの対立する両者の意見をすり合せ、実際には山を切り出さないという結論を導きました。

【FD と自治体政策】

このFDという考え方は歴史上あるいはアカデミックの独占物なのでしょうか。答えは否です。FDの発祥地であるアメリカでは合衆国建国の際に活かされたと伝えられていますし、わが国においても、例えば岩手県矢巾町や大阪府吹田市、長野県松本市筆者が関わる京都府与謝野町など、数こそ少ないがFDの導入例が存在します。そして、導入自治体では、FDを導入することで「課題解決型」の議論だけでなく、「長所進展型」の議論が見られることも注目したい点です。こうした視点こそが地域課題や自治体政策の多様化への対応策を検討する際の突破口になると考えます。

【まとめ】

今後詰めなければならない課題も山積であるが、多様化する地域課題に対応するには、FDを実際に導入するかは別にしても、多元化する自治の担い手同士が対等に対話しながら、「運動と制度の無窮動」を繰り返し、未来志向あるいは未来からの視点で地域を構想していくことが地方自治や民主主義の発展には不可避であると考えます。

分野別公開講座

第2回公開講座 「公共経営」分野の理論と実践をお伝えします

第2部 「魅力と活力の向上を目指したまちづくり ～景観を切り口に～」

- ◆開催日時：7月18日(火) 18:30～20:30 ◆会場・場所：市民交流プラザふくちやま会議室 3-3
 ◆講演者：福知山公立大学地域経営学部 教授 福島 貞通
 ◆司会者：福知山公立大学地域経営学部 教授 谷口 知弘

(講師プロフィール)

1947年 生まれ。1971年 京都市に奉職。建築指導部長、都市景観部長、景観創生監などを歴任。建築行政、景観行政、まちづくり行政、住宅行政、営繕行政に携わる。

都市の安全・安心と伝統、文化の継承の両立を図る様々なまちづくりに関わる制度・仕組の創設等に携わる。足掛け3年を掛けた、京都の「新景観政策」の創設・施行の後、2008年3月に退職。現在に至る。

- ・京都大学、武庫川女子大学、龍谷大学の非常勤講師
- ・建築関係法令、景観・都市政策、建築・まちづくり行政等に関するコンサルタント、教育、研修活動
 - *武道が好きで、古代史に興味を持つ 少し古風な男です。
 - *ヨットが好きで、玄界灘でレースに出たこともあります。(昔むかし・・・)

現在、福知山市都市計画審議会委員、福知山市空家等対策協議会委員

〔概要〕

地方分権の推進とグローバル化が叫ばれて久しい中、各都市においては、それぞれの都市特性を活かした魅力あるまちづくり（都市形成）への取組が求められています。ただ、一口に「まちづくり」と言っても、その切り口によって様々です。

今回の公開講座は、歴史都市として景観行政の先進都市と思われてきた京都市における町並みの変貌と、その状況を生み出してきた要因に少し触れながら、その打開に向けて、景観政策等の抜本的改革に大ナタを振るった当時の市長の号令による、全国で初めてと言われた総合的な景観政策、京都の「新景観政策」の概要を解説し、「景観を切り口としたまちづくり」の意義と効果を考えることを目的としたものです。

紙面の性格上、詳細な内容は記載することが叶いませんので、当日の講座内容の概括的な紹介に止めさせていただきます。

〔詳細・内容〕

|| まちづくりの要諦 ||

今、どの都市も魅力と活力のある都市形成を実現しようと、あらゆる政策の検討が為されていることは周知のとおりです。

この「都市」というものは、私たちの日々の暮らしや社会活動など、あらゆる人生を営む舞台としての性格を有するものです。

どのような舞台を造ろうとするのか、どのような経営方針の下に都市を運営していこうとするのか、このグランドビジョン（基本構想）を明確に示すことが重要となってきます。ただ、この都市形成の考え方は、人それぞれの好み、生業、立場、そして地域等によって様々です。各都市は、これらを踏まえ、すべての人の営みを勘案しつつ、その都市の特性を活かした方針を策定することになります。正に、「まちづくり」であり、公共政策として、地域経営の観点から考えることになるものです。

|| 先進都市としての取組と状況 ||

自然に恵まれた歴史都市として自負していた京都の景観政策の具体的な取組は、昭和5年の風致地区の指定に始まると言えます。その後、昭和47年には全国に先駆けて巨大工作物の規制等も盛り込んだ「市街地景観条例」を制定し、翌年には市街地の大半に都市計画法等の規定に基づく建築物の高さの規定を設けるなど、都市の美観、立体構成を念頭に置いた都市形成を考えてきました。その背景には、近年の社会経済情勢の変化や偏った経済性・効率性の追求等による全国的な開発の波が、京都にも影響を及ぼし無秩序な町並みの変容という現象を生じさせてきたという経緯がありました。

問題は、その取組後においてもこの流れは変わらず、幾度かの景観、まちづくりに関する審議会を立ち上げ、その答申を受け、まちづくりの基本方針を策定し、新たな組織等も設置してきたのですが、市街地景観の変容は進む一方で、歴史的町並みも崩壊の一途を辿り続け、正に歴史都市としての危機を招いてきたということでした。

|| 景観政策の抜本的組替を必要とした訳 ||

なぜか。この「なぜ？」を真剣に考えた者がどれほどいたか。殆どいなかったと言って過言ではありません。この問題は、実務的教育として基礎的知識と技術的能力に関わる重要な要素を成すもので、私の「地方行政」等の講義の中では少し詳しく説明しているものです。時間の都合上詳細な説明は避けませんが、簡単に触れておきますと、行政の能力を判断する一つに「執行体制の質」があります。そしてこれは、単に組織を創ればよいというものではありません。そこに配置される人の資質が重要となってきます。これが忘れられていたということです。特に私が「失われた5年」と呼んでいる時期の京都の乱れは正にそのことを如実に表しているものなのです。

このような状態を抜本的に改善するため、初めて首長（当時の榊本頼兼市長）による先に述べた大号令が発せられたわけです。

|| 新景観政策策定への取組 ||

先の市長の号令を受け、景観法が全面施行されたことを契機に、改めて、学識経験者、議員、専門家、企業人、市民等各階各層の代表者21人による審議会（「時を超え光り輝く京都の景観づくり審議会」）を立ち上げ、50年後、100年後の京都の将来を見据えた景観形成の在り方について諮問したのでした。

当日説明させて頂いた新景観政策の考え方、具体的施策について、その項目を以下に羅列しておきます。

|| 総合政策としての新景観政策の仕組 ||

◇三つの考え方と五つの基本方針

<三つの考え方>

- ・50年後、100年後の将来を見据えた歴史都市・京都の景観づくり
- ・景観は「公共の財産」
- ・優れた景観の継承は今を生きる私たち一人一人の使命・責務

<五つの基本方針>

- ・「盆地景」を基本に自然との共生
- ・伝統文化の継承と新たな創造
- ・京都らしさを活かした景観形成
- ・都市の活力を生み出す景観形成
- ・行政、市民、事業者等のパートナーシップによる景観形成

◇具体的施策の構成

- ・市街化区域全域での高さ規制の見直し
- ・デザイン規制の見直し（意匠、形態、色彩 等々）
- ・眺望景観・借景の保全の仕組の創設
- ・屋外広告物対策の強化
- ・歴史的建造物の保全・再生の取組
- ・上記施策の実効性を高めるための各種の支援策
（補助、低利融資、アドバイザーの派遣 等々）

◇政策実現のための道具の組立

- ・4つの法律の活用と6つの条例の整備（新規創設2つ、改正4つ）

◇キーワード

- ・進化するデザイン基準、進化する景観政策（この意味はまたの機会に・・・）

|| 景観政策の意義 ||

景観は単なる見た目の美しさをみているものではありません。

今回の新景観政策は、「京都ブランド」を確固たるものにするとともに付加価値を生み出し、“ほんもの”の都市として経済的活力を生み出す効果も考えたものです。

景観は、その都市の都市格や魅力の向上に大きな影響を与えるものです。都市格や魅力の向上は、居住者や交流人口の増加、人材の集積を生み、地場産業、観光産業、知的産業等への投資の促進を誘導し、持続的な都市の健全経営に繋がるものです。

今回の京都の新景観政策は、「京都がいつまでも京都であるために・・・」を基本テーマに取組んだ全国的にも話題となった「梶本前市長」の大きな足跡の一つです。



|| 福知山市の特性 ||

ここ福知山市も、山紫水明の自然に恵まれ、地域ごとに伝統と新しさが混在する美しい都市です。魅力と活力のある都市の形成に大きな可能性を持つ都市だと感じています。今までにいろいろな方とお話をさせて頂きましたが、行政の方はもちろん、住民の中にもまちづくりに熱心な方が多いという印象を受けています。

福知山市の魅力と活力の向上を目指したまちづくりへの実行性のある取組に期待しています。

以上、各施策の解説は省略しましたが、足掛け3年を掛けて携わってきました京都の新景観政策の触りの紹介とさせていただきます。

分野別公開講座

第3回公開講座 「観光経営」分野の理論と実践をお伝えします

第1部 「天職のヒントを探す旅～天職観光の時代～」

- ◆開催日時：9月21日(木) 18:30～20:30 ◆会場・場所：市民交流プラザふくちやま会議室 3-2
- ◆講演者：福知山公立大学地域経営学部 准教授 塩見 直紀
- ◆司会者：福知山公立大学地域経営学部 教授 中尾 誠二

〔概要〕

17年前、故郷の綾部市にUターンして、「里山ねっと・あやべ」の初代スタッフとして、都市農村交流に関わるようになり、「綾部はどんなツーリズムをおこなうべきか」は大きなテーマでした。「人はなぜ旅をするのでしょうか。旅は個人の欲求から始まります。つまり答えは、自分の中にあるのです」（京都嵯峨芸術大学・坂上英彦）という言葉に出会い、「人はなぜ旅をするのか」について関心を持つようになります。10年前、「天職観光」というコンセプトが誕生しました。天職観光とは、「自らの天職のヒントを探す旅」をいいます。今までの自分の旅を振り返ると、自分のミッションのヒントとなる場所を旅し、人に会い、新しい発想の空間や店などを見てきました。今後もきっと同じような旅をするだろうし、それ以外の旅をしたいとは思いません。1つの未来予測として、これからの時代、人は天職のヒントを探す旅をし、天職を応援する街や村、国が選ばれるようになるのではないかと、というのが筆者の仮説です。天職観光というコンセプトによって、見えてくる世界、浮かんでくる観光立国のあり方があります。今回は筆者が長く温めてきた「天職観光」というコンセプトを紹介します。

〔詳細・内容〕

1. 「天職観光」というコンセプトにたどり着くまで

筆者は20年前から、21世紀の生き方、暮らし方として、「半農半X」というコンセプトを提唱してきました。背景は20代（1990年代前半）のときに出合った環境問題と天職問題で、これからの時代をどう生き、どう持続可能に暮らしていくかについて、20代半ばの5年間をかけてたどり着いたのが「半農半X」というコンセプトでした。半農半Xはマーケティング用語ではなく、この時代をどう生きたらいいのかと悩む中で行き着いたものでした。半農半Xを定義するなら、持続可能な農ある小さな暮らしをベースに、天与の才（X＝得意なことや大好きなこと、天職、生きがいなど）を世に活かす生き方、ソーシャルデザインする生き方です。半農半Xが普遍性をもつと考える理由は2つあります。1つは、人は何かを食べないと生きられないこと（生命としての宿命）。もう1つは、人には何か「生きる意味」が必要だということです。2003年に『半農半Xという生き方』を上梓。拙著は若い台湾人女性によって、台湾の出版社に持ち込まれ、『半農半X的生活』という題で中国語版となりました（2006）。さらに中国大陸において（2014年）、2015年には韓国においても翻訳され、東アジアにひろがっていきました。日本各地からだけでなく、台湾からも香港からも中国大陸からも読者が筆者のもとを訪ねてきます。京都の田舎の地まで、人はなぜ時間とお金をかけてやってくるのでしょうか。2017年、香港から綾部の農家民宿「里山ゲストハウス クチュール」にやって来た若者に、「あなたの今回の日本の旅は、天職観光か」と尋ねてみたら、まさにそうだと言います。

2. ○○ツーリズムと天職観光

筆者は大学と企業時代の約15年間、郷里を離れ、33歳を機に、故郷の綾部市に1999年1月、Uターンしました。同年3月、母校の小学校が統廃合で閉校となりました。跡地を活かし、都市農村交流事業が2000年にはじまりました。筆者は母校を管理する公設民営のNPO法人「里山ねっと・あやべ」の立ち上げスタッフとして、交流事業を担当するようになりました。都市農村交流を学ぶうちに、1つの疑問が湧いてきました。それはグリーンツーリズム、エコツーリズム、ルーラルツーリズムなど、新しい旅を示すものはいろいろありますが、今後、綾部市でおこなってみたいツーリズム、おこなうべきツーリズムは既存のことばを使っても表現できないのではないかとということです。綾部がやるべきなのは、何ツーリズムなのか。○○ツーリズム。この○○を探すなかで、問いかけ続けたのが、「旅とは何か」「人はなぜ旅をするのか」という根源的な問いでした。いま、日本にはこの部分が欠けているのではないのでしょうか。10年前、北海道を家族で旅したとき、「天職観光」ということばが浮かび、企画したい方向性が定まりました。人はおそらく天職のヒントを探すための旅をするのではないのでしょうか。人は自分の天職力を高めるために、他者や他所の「光」に学びに行くのではないのでしょうか。この仮説を表現するためのことばが「天職観光」です。「天職観光」を定義すると、「自らの天職のヒントを探す旅」というシンプルなものになります。自分の天職を求める人も、天職をおこなっている人もみな、さらなるヒントを求めて生涯、旅をします。筆者は新しい旅の姿が、観光の未来がここに見えてくると感じています。

3. 「綾部とは何か」「福知山とは何か」を問うこと

なぜ、グリーンツーリズムやエコツーリズムやルーラルツーリズムではないのかというと、それでは綾部でおこないたい旅を100%表現できないのではないかと考えてきたからです。「旅とは何か」を考えるうえで重要になるのが、「綾部とは何か」という問いです。おそらく都市農村交流のみならず、着地型観光に関わる人は「この地とは何か」を問うでしょう。筆者もそのことをUターン後、ずっと考え続けています。では、福知山はどうでしょう。どんな旅を福知山は提案すべきなのでしょう。

4. 「人生探求都市」をめざして

いまという時代をたとえるなら、台風接近時と似ているように思います。海は波が高く、大荒れの状態です。空には黒い雲が立ち込め、雨も降り、灯台の灯りも北極星も見えません。船にあるはずの羅針盤も壊れていたり、海に落としてしまっています。そんななか、人はどういう方向で生きれば、暮らせばいいのでしょうか。生き方のヒントを多くの人が求めています。2007年から筆者は「半農半Xデザインスクール」という1泊2日の学び旅を企画してきました。会場は綾部の農家民宿で、定員7名の小さな旅です。30歳前後の若い世代が、綾部まで旅してくれましたが、半数は首都圏からでありました。自然のなかに身を置き、野菜中心のごはんをいただき、五右衛門風呂に入り、村を歩き、半農半Xというキーワードで出会った仲間と2日を過ごし、今後の人生のことを、人生で大事なことを考えます。綾部は市のキャッチフレーズを「人生探求都市」とすべきと考えています。人生を真摯に考える若人が旅をし、人生のヒントを提供できる唯一無二のまちです。綾部の「イワンの里」や「クチュール」などの農家民宿、「Suncha cafe」や「日々」などカフェなどはそんな旅を応援してくれます。「他者の天職を応援するまち」が今後選ばれていくと感じています。人はなぜ旅をするのでしょうか。おいしいものを食べたり、まだ見たことのない風景を見たいなどといった理由もありますが、以前からあると言われる理由が、「自分を変えるための旅」「新しい自分に出会う旅」なのです。「生きる意味」「人生100年」といった観点から、今後のツーリズム、未来の旅、21世紀の観光をリ・デザインできるのではないかと筆者は考えます。福知山市民のみなさんと天職観光に関する研究会ができたかと願っています。



分野別公開講座

第3回公開講座 「観光経営」分野の理論と実践をお伝えします

第2部 「訪日客を受け入れる農家民宿の経営」

- ◆開催日時：9月21日(木) 18:30～20:30 ◆会場・場所：市民交流プラザふくちやま会議室 3-2
- ◆講演者：福知山公立大学地域経営学部 助教 張 明軍
- ◆司会者：福知山公立大学地域経営学部 教授 中尾 誠二

〔概要〕

2016年の訪日外国人客数は2015年比21.8%増しの2403万9000人で、「観光立国推進基本計画」を実施して以来、最多の訪日者数となりました(図1)。2020年東京オリンピック・パラリンピックの開催等により、日本政府は「訪日観光客数は2030年までに6000万人、地方(三大都市圏以外)での外国人延べ宿泊者数は2030年1億3000万人」の目標を掲げています。農山漁村の地域振興に対して、都市農村交流、子ども農山漁村交流の次に、更にインバウンド観光の新しい受け皿として、農家民宿への期待は上昇しています。実際には、農家民宿はインバウンド観光への適応力という面ではもっとも遠い位置にあり、個々の農家民宿が単独でインバウンド観光に対応することは困難でしょう。組織的な農家民宿群を形成することによるインバウンド観光への適用可能性について解説しました。

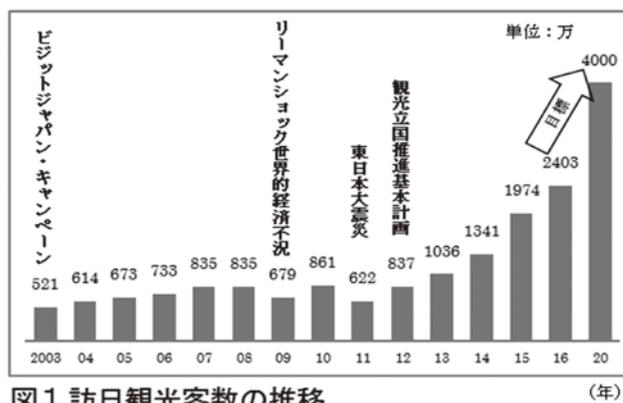


図1. 訪日観光客数の推移

資料：2016年観光庁のデータに基づき筆者作成

〔講演内容〕

農家民宿群とは、農村地域において、「集客窓口となる受入組織が機能し、多数の農家民宿から構成される地域」であり、集客機能を果たし、経済面の目的を実現できると同時に、異文化交流という精神面の要望も満足できます。講演では、組織的な農家民宿群を形成する「春蘭の里」を取り上げ、インバウンド観光への適用可能性を解説しました。

「春蘭の里」は石川県能登半島北部の能登町に位置します。能登半島は2011年6月にFAO(国連食糧農業機関)から日本初の世界農業遺産(GIAHS)に認定されました。「春蘭の里」は、47軒の農家民宿から構成され、小学校跡に体験・宿泊施設である宮地交流宿泊所が開業することにより団



講演の実況

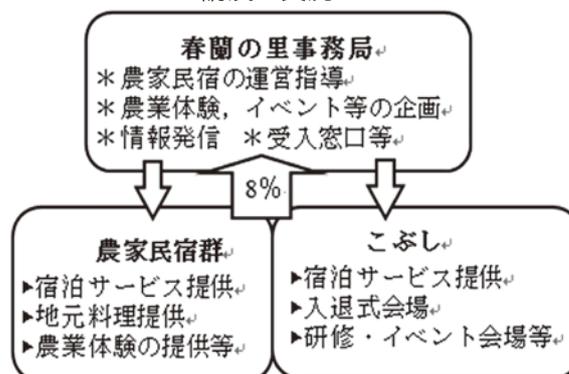


図2. 春蘭の里農家民宿群の組織運営体制

資料：ヒアリング調査に基づき筆者作成

分野別公開講座

第4回公開講座 「医療福祉経営」分野の理論と実践をお伝えします

第1部 日本の介護保険を世界に～WHO(世界保健機関)プロジェクトの目指すもの～

- ◆開催日時：11月15日(水) 18:30～20:30 ◆会場・場所：市民交流プラザふくちやま 3F 視聴覚室
- ◆講演者：福知山公立大学地域経営学部 教授 岡本 悦司
- ◆司会者：福知山公立大学地域経営学部 准教授 星 雅丈

〔概要〕

人口高齢化は世界的現象であり、国際保健の課題も感染症や栄養対策から、皆保険制 [ユニバーサル・ヘルス・カバレッジ、UHC] や介護対策に移っています。アジア諸国に先がけて皆保険制を達成したわが国は、各国の UHC 達成支援を国策に掲げており、WHO 神戸センター [WKC] も今後 10 年の研究戦略を UHC を中心にすえました。研究テーマは、わが国のデータを用いて、国際的に使用可能な要介護認定法の開発する、であり、本講演ではその概要を説明するとともに、研究実施にあたって必要な市民 [在宅要介護者] の皆様の御理解と支援をお願いします。

〔詳細・内容〕

介護保険と医療保険の決定的な違いに「要介護認定」があります。医療保険では、この患者の治療は〇円までというふうに「予算」に縛られることはありませんが、介護保険では、どの程度介護を要するか、によって限度額が定められる医療とは異なり、介護はどんなに受給しても有害ではないので限度額を定めなければ財政破綻になるでしょう。

どの程度の介護を要するか、すなわち要介護度は、身体機能の程度をあらゆる障害度 [たとえば視覚障害は視力検査で客観的に測定できる] と異なり、その測定は容易ではなく、ある国が介護保険を導入する際に最も困難な課題となります。2000 年にわが国が介護保険を創設した時も、要介護認定をどのように行なうかは大きな課題でした。1995 年より一足先に介護保険を導入したドイツの要介護認定ツールは簡単すぎて参考になりませんでした。アメリカは、在宅要介護者も対象とした要介護認定法 [resident assessment instrument, RAI] を開発しており、その「輸入」を提言したグループ (Inter-RAI) もありますが、結局、わが国独自のものを開発することとなりました。

しかしながら、在宅介護はまだ始まっておらず、特別養護老人ホーム等の入所者のみを対象に実施せざるをえませんでした。また介護の手間の測定も、介護の種類とは無関係にどれだけ介護に時間を要しているか、という時間測定で計られることにされました。具体的には、観察者が介護者に 48 時間にわたってつきそい、1 分間ごとに何かをしているか、していないか、で要介護時間が測定さ



要介護認定:介護保険の出発点
 ・介護保険受給にはまず市町村に要介護認定を申請
 ・市町村より調査員が派遣され調査票に記入する



1. 要介護認定の申請	申請書に記入された内容を確認し、必要に応じて調査員を派遣する。
2. 調査員の派遣	調査員が訪問し、介護者の状態を確認し、調査票に記入する。
3. 調査票の記入	調査員が介護者の状態を確認し、調査票に記入する。
4. 調査票の提出	調査員が記入した調査票を市町村に提出する。
5. 要介護認定の決定	市町村が調査票を確認し、要介護認定の決定を行う。
6. 要介護認定の通知	市町村が要介護認定の結果を介護者に通知する。
7. 介護保険の受給	介護者が要介護認定を受け、介護保険の受給を開始する。

れました。48 時間 ×60 分=2880 分中 150 の測定時点で何らかの介護 [食事の介助、排泄の介助等にコード化された] が提供されていれば、その人の要介護時間は 150 分となります。

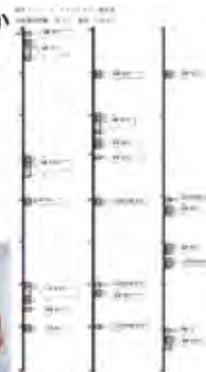
同時に、各要介護者の ADL [日常生活動作] も評価され、ADL の調査票から要介護時間を推計する分析が行なわれました。たとえば「自分で衣服の着脱」が「できる・できない」の2値なら、0 と 1 というふうに変数化すれば重回帰分析という伝統的な手法を用いることができます。しかし「できる・介助があれば可・できない」といった3値では、重回帰分析は適用できません。そこで 1996 年頃より輸入された SPSS という統計プログラムのデータマイニング手法 [CHAID] が用いられました。これはわかりやすくいうと、ツリー [樹形] 図というアミダクジ的な分析手法です。重回帰分析と違って、コンピューターがなくてもツリーをたどれば測定できる、という簡便さはあるものの、こうした手法が重回帰分析より優れているか、の検証はされていません。

現在、わが国介護保険で使用されている要介護認定の調査票はこうして抽出された 74 項目の ADL の調査票からなっています。では、わが国の要介護認定調査票を現地語に翻訳すれば外国で使用できるでしょうか？ 第一に、わが国調査票は特養等の施設入所者の調査から開発されました。介護保険受給者の多数は在宅で受給する者であり、施設入所者の調査結果がそのまま適用できる、という保証はありません。第二に、現行の要介護認定は、要介護時間の推計であって費用の推計ではないのです。同じ 10 分間の介護でも、食事の介助と入浴の介助では負担や必要人数 [入浴介助は複数人必要であろう] は異なります。だからこそ介護保険の報酬は、通常のホームヘルプと訪問入浴介助とは異なる点数となっています。第三に、48 時間中何分という推計時間を 1 か月間のサービス点数の限度額に使えるのか、という問題があります。支給限度額は暦月単位であって 1 日単位ではありません。そして最後に、樹形図という手法が本当に正確なのか、という問題があります。国が公表したデータをみても、推計値と実測値には大きな乖離がみられます。

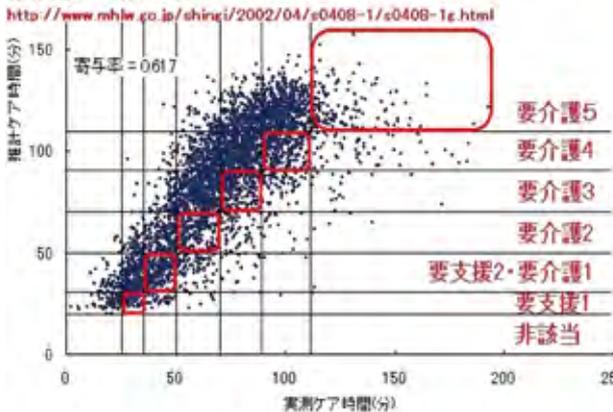
こうした問題は 2000 年のスタート時より指摘されており、すでに 17 年分の「実際の」データが蓄積されているにもかかわらず、10 年前に一部修正があっただけで根本的な見直しはされていません。本研究の目的はわが国の要介護認定を批判したり修正を要求することではないのですが、少なく

要介護認定はどのように開発されたか

- 2007年1～3月60の介護保険施設において3519人の入所者を対象に1分間タイムスタディが実施された。
- 1日(60分×24時間=1440分)中に、何分間ケアが提供されたか、右図のように集計する
- 日常生活動作(ADL)の調査も行う
- 日常生活動作の結果から介護時間を推計する
- データマイニングと呼ばれる手法がもちいられた



高齢者介護実態調査(施設) (n=4,478,2001年)における実測ケア時間と同調査の結果を基に作成されたソフトによる推計ケア時間の分布 赤枠内が一致する例



目的とする要介護認定調査票と現行との比較

	現行の要介護認定調査票	在宅版要介護認定調査票
調査項目数	74項目	20～30項目(できるだけ少なく)
回答項目	自立・一部介助・全介助等の3～4値	できる・できないの2値に変換
対象者	施設入所者	在宅者
対象者数	3519人	約2000人目標
分析手法	樹形モデル(CHAID)	重回帰分析
調査期間	48時間	1か月(複数月の平均)
目的変数	1分間毎の介護行為の有無	実際に提供された介護単位数
種類	1種類のみ(基準介護時間)	訪問介護 訪問リハビリ 通所介護等介護の種類毎

とも国際的に通用するためには上記の4つの課題を学問的に検討したものでなければなりません。本研究は、国際的に通用する [=外国でも使用できる] 在宅版の要介護認定の手法を開発を目的としたものであり、現行の要介護認定と本研究の目指す在宅版要介護認定の手法の違いをまとめると左図のようになります。

分野別公開講座

第4回公開講座 「医療福祉経営」分野の理論と実践をお伝えします

第2部 医療情報分野の標準化について

- ◆開催日時：11月15日(水) 18:30～20:30 ◆会場・場所：市民交流プラザふくちやま 3F 視聴覚室
- ◆講演者：福知山公立大学地域経営学部 准教授 佐藤 恵
- ◆司会者：福知山公立大学地域経営学部 准教授 星 雅丈

〔概要〕

様々な「機械」に囲まれて営まれる市民生活は、多くの「標準」によって支えられています。もちろん、「標準」はその存在を意識されることはほとんどありません。しかし、「標準」がなければ、現代の利便性の高い生活を送ることは不可能です。

医療は、「標準化」が遅れた分野の代表格ともいわれてきました。私の専門である医療情報学では、この「標準化」が、今でも主要な課題の1つです。それでも、その成果を基盤とした様々な施策が、市民生活に浸透しつつあります。

本講演は、基盤技術としての「標準」について、まず説明しました。その次に、医療分野における「標準化」の難しさをお話ししています。そして、医療分野における標準化の成果の1つとして、医療費の新しい算定方式を取り上げています。

〔詳細・内容〕

「標準」は、現代生活を支える基盤技術の1つです。もし、コンセンツの形がまちまちだったら、たちまち市民生活は混乱します。しかし、その恩恵は、普段意識されることはありません。それくらい、「当たり前」の技術なのです。

それを裏付けるように、この「標準化」は、古代から、もしかしたら無意識のうちに行われてきました。たとえば、古代エジプトのピラミッドの建設には、標準化された言葉、標準化された規格、それを決める様々な標準化された単位が必要です。

それら古代からの「標準」が、重要な基盤技術として体系化されたのは、社会の急速な工業化がきっかけです。規格が揃った製品を、できる限り安価に生産するためには、多くの標準化された技術が必要です。

医療分野は、そこから最も遠い位置にあるように思われてきました。「1人として同じ患者はいない!!」と聞こえてきそうです。同じ病気でも、10種類以上も異なる病名が使われている例がある。それが、医療分野の実態でした。

医療分野の標準化は、用語・コードを対象として始まり、データのやり取りの方法などに広がっています。

その成果の1つとして、新しい医療費の算定制度「包括支払制度」が挙げられます。これは、高騰する医療費抑制のため、入院患者を対象とした制度です。入院中に、医療資源を最も投入した病名が、その算定基準となります。その病名は、標準化された病名集から選ばれ、それを標準化されたコード



を用いて、標準化された様式で報告されます。この他にも、治療法の標準化など、様々な「標準化」の成果が利用されています。



分野別公開講座

第5回公開講座 「教養」分野の理論と実践をお伝えします

マスメディアの未来 — 拡張現実 —

- ◆開催日時：1月26日(金) 18:30～20:30
- ◆会場・場所：市民交流プラザふくちやま 3F 視聴覚室
- ◆講演者：福知山公立大学地域経営学部 准教授 エリック・チャールズ・ハーキンソン
- ◆司会者：福知山公立大学地域経営学部 教授 谷口 知弘

(概要)

Augmented Reality in Fukuchiyama Community Spaces

Open workshop given on Friday, January 26th 2018

Eric Hawkinson, Amelia Ijiri, Perisa Mehran

(Alphabetical Order)

About the event.

On January 26th, three members of the Mixed, Augmented, and Virtual Realities in Learning research. On Friday, April 7th 2017 our research group (Mixed, Augmented and Virtual Realities in Learning—MAVR) in collaboration with The University of Fukuchiyama in Japan, designed and implemented a series of mixed reality environments to orientate and connect students to the community and its members.

A Virtual Trip to the Unseen Iran

Recently, I had the chance to talk about my homeland, Iran, at the University of Fukuchiyama. The title of my presentation was “A Virtual Trip to the Real Iran” . I started with showing the cat-like map of Iran. First, I introduced my hometown, Tehran. I showed photos of Tehran in four seasons and its ski resorts. Then, I took the audience first to the lush green forests of northern Iran, then Isfahan known as “half of the world” , Yazd, and finally Shiraz. We visited Persepolis, a fire temple, wind towers, and mesmerizing mosques. I also talked a bit about the Persian New Year. Afterwards, our culinary journey started as I cannot introduce my country without talking about food, which is an integral part of the Iranian culture. I also showed photos of Iranian women in their traditional colorful clothes and I emphasized that Iranian women are assertive, powerful, and strong, and a lot more independent than it is thought. I also introduced the Persian language. I had designed special papers and I wrote the attendees’ names on those papers in Persian from right to left. After that, it was time for the most exciting part of the presentation. We virtually travelled to Shiraz and visited a famous mosque known as “Pink Mosque” via Google Cardboards. I asked the audience to scan a QR code (<https://www.360cities.net/image/nasir-al-mulk-mosque-shiraz>) which took them to the



heART of the mosque, and the room was then filled with “wow moments” . Some of the attendees started walking around to be able to see the entire captured scene.

I finally explained how I similarly use Google Cardboards to take my students to the real Iran in my English classes.

Fukuchiyama AR Rally

On Friday, April 7th 2017 our research group (Mixed, Augmented and Virtual Realities in Learning—MAVR) in collaboration with The University of Fukuchiyama in Japan, designed and implemented a series of mixed reality environments to orientate and connect students to the community and its members.

The design was the latest iteration of a class of mixed reality learning environments by the group and largely based on the previous years AR Quiz Rally design by Eric Hawkinson. Over the course of an entire day, 220 participants in teams of 10 explored the city of Fukuchiyama in a gamified mixed reality experience. Fukuchiyama is a city in the mountains of north Kyoto Prefecture (Same idea as up-state New York). Students used an augmented reality application and a popular messaging application to find locations, objects and people in the city as well as complete team building challenges and engage with members of the community.

The goal of the project was three fold.

To orientate new students to the city

To create an atmosphere conducive to building new relationships

To connect students to members of the community and opportunities for further community engagement

Augmented reality is very well suited to enhance this type of environment. There are physical locations and people to visit and participants can benefit from receiving timely information about where they are and what/who is around them.

The teams of participants were made up of mostly in-coming freshman students to the University of Fukuchiyama but also included at least two upper class members and one faculty/staff member.

The research team, was mostly made up of members from the MAVR Research group. The MAVR group is looking into what kinds of mixed reality designs work best in different learning environments and had some projects already in progress that were integrated into the activities of the day. One example of those projects is a study abroad pre-departure VR project by Josh Brunotte and Chris Hastings. Another is a AR library scavenger hunt designed by Eric Hawkinson. The team split up all over the city to facilitate different mixed reality activities, Eric stayed on campus and managed communication over all teams and researchers at mission control.

Augmented Reality at The Fukuchiyama Flood Museum

私はエリックの主催する福知山治水記念館のアクティビティーづくりを手伝いました。この記念館には、川の氾濫に対抗してきた歴史がつづられており、地域にとって大きな意味を持つ場所です。ガイドの人による説明、そして、数々の展示品を見終わってこのオリエンテーションで何をおこなうべきか、そして、この洪水の問題に対処するコンセプトは何にすべきかを、エリックと議論しました。

そこで、結果として、洪水がたびたびおこる街に住んだことがない学生は、洪水への対策がどんなものか想像できないだろうと仮定しました。任務を学生に課しました。その任務とは拡張現実カードにあるヒントを解読することによって、水位が上がってしまう前に、二階だての家の中を進んでいくというものです。

Find out More

<http://erichawkinson.com>

<http://x.co/mavrsig>

井口学長塾

岩波新書『シリーズ日本近現代史』【全10巻】を読む

- ◆開催日時：6月24日～12月2日 隔週土曜日 午前10～12時 全11回開催
 ◆会場・場所：古本と珈琲 モジカ ◆読書会主宰者：福知山公立大学長 井口和起

【概要】

「私たちはどんな時代を生活しているのか？この地域はどう変わってきて、どう変えていけるのか？こんなことを考える出発点になればと企画しました。少し量が多いので大変かもしれないけれど、さまざまな人たちと同じ本と一緒に読み話し合うと、人によって読み方に大きな違いがあることにも気づかされて面白くなっていきます。仲間に加わってくださる社会人の方々や大学生・高校生のみなさんを募っています。」

日本近現代史の研究者である本学の井口学長がこう呼びかけて、この講座は昨年11月から始まり、本年度は昨年度の続き、岩波新書『シリーズ日本近現代史』④「大正デモクラシー」から再開され、以下、同シリーズの⑤「満州事変から日中戦争へ」・⑥「アジア・太平洋戦争」・⑦「占領と改革」・⑧「高度成長」・⑨「ポスト戦後社会」をそれぞれ2回で読み終えるペースで進められました。毎回、最初に参加者が議論・意見交換したいテーマを提案し、それを中心に各巻の著者の見解を確認し合いながら、それへの疑問や批判あるいは深めたい論点などを出し合う読書会になりました。

主宰する井口学長の解説が多くて、まるで「独演会」になる場合もありましたが、参加者の中から調べてきたことの発表があったり、第⑥巻以降になると参加者の多くが生きてきた時代ですから、様々な体験からくる意見表明などもあり、参加者全員で作りあげる読書会になりました。

なお、⑩「日本近現代史をどう見るか」は⑨巻までの著者がそれぞれの巻でもっとも書きたかったことを要約してまとめられた巻ですから、⑨巻までの各回にその都度参照しながら読み終えました。ただ、主宰者の都合（忌引き）で9月9日は開催されませんでしたので、本年度は11回の開催となり、⑨巻だけは1回で済ませることになりました。

【詳細・内容】

【各回の開催日と参加者数】

6月24日 26名（以下、月日を省略） 7/15…25名 7/29…19名 8/12…21名 8/26…23名
 9/23…23名 10/7…24名 10/21…21名 11/4…23名 11/18…17名 12/21…28名。
 残念ながら、昨年度も今年度も大学生・高校生の参加は皆無でした。

【各回の会場準備など】

会場の座席設定や終了後の後片付けなどは、毎回参加者有志によって行われました。

最終回の12月2日、読書会終了後、これまでの参加者たちで忘年会か新年会をやるということになり、数名の方がその世話人になり、年末に主宰者も含めて打合せた結果、2月3日に新年会が行わ



れました。新年会の案内には参加・不参加を問わず、事前に「今期の感想」と「次期の学習希望」を文章で寄せることが要請され、当日印刷されて参加者全員に配布されました。

当日参加者は23名で、全員が「感想」と「希望」を語り、意見交換し交流を深めました。

【感想と希望】

以下に、寄せられた「感想」や「希望」の主なものを紹介しておきます。

- ◆ 人文・社会科学的なアカデミックなものへの憧れと「なぜ、どのようにして、今日のような日本・世界が形成されたのか？」を知りたいと思っていたので、歴史に少し興味があるだけの素人の夫婦で（参加しました）。発言することはほとんどなかったですが、各巻執筆者の着眼・記述に対する井口先生や参加のみなさまの意見・お話を興味深く拝聴し、心中「なるほど！なんと！」を連発しながら、モジカさんのコーヒーを味わいつつ楽しく過ごすことができました。講座が終わりに近づくにつれ、知識が少し増えてきたはずにもかかわらず、当初の自分の「テーマ」と「解」を隔てる溝は埋まるどころかより深くなったと感じています。世界の近現代史、とくに関係の深い極東地域の歴史について勉強したいと考えます。
- ◆ 最大の成果は、ともかく岩波新書の日本近現代史シリーズの①～⑩の十冊を読み通したことだと思います。読書会での他の人の発言や井口先生の解説などを通じて、読み進めることができ、これは自分一人で勝手に読む場合と違って、刺激にもなり、読む段階から緊張感をもつことができたという点でよかったです。自分の読みの浅さや解釈の間違いに気づかされこともしばしばありました。（次回は）何か分野を絞るか地域を限るか（例えば京都府を中心にというように）、また戦後の日本近現代史の研究史を辿るようなものも面白いと思います。
- ◆ 今読書会を了えて、「日本が引き起こしたアジア・太平洋戦争の惨禍」について、果たして現在の日本・日本国民は如何なる評価を持っているのだろうかという思いがあります。歴史の諸事象の深部に何が在るのか、父や祖父、曾祖父がどのような時代を生きたのかを含め、学べる良い機会が与えられたことに感謝します。
- ◆ 読書会で感想や疑問や意見を“強要”されて、的外れな意味不明のことをしゃべったんだろうと、今も冷や汗ものです。2回ほど欠席しただけで最後まで参加できた動機を振り返ってみると、2つのことに思いあたります。一つ目は、最後の読書会の感想でYさんが「自分が出てこない」とおっしゃっていたのが印象に残っているのですが、世界と自分の関わり方の変遷というか、明治初期の“客分”としての国民のあり方、やがて“国民”に変えられ（変わり）、果ては“臣民”となっていく“自分”なんだと、まだ意味不明な興味や関心の持ち方ですが、歴史について知らなかったことの多さにあきれながら「知る」ことの刺激が心地よい学習でした。（二つ目は井口先生“追っかけ”）第二期も“追っかけ”を続けます。
- ◆ 日頃は地方文書の目録採りやら村方の史料調査を基礎作業として勉強していますが、感想としては講座本では近代史は世界史だな、という印象です。逆に「日本」近代史の基本である在地の課題が10冊の中では結びつかなかったなあという印象です。今年は、講座明治維新全12巻（まだ未刊もありますが）をじっくり読んでみたいです。また、時には会のみなさんでお金を出し合って、執筆者の方をお招きし講演会やシンポをやるのもよいかと思います。歴史系の講演会は福知山市ではありませんし、特に近代史となると年に1回も無いと思われま。
- こんなわけで、次年度は東アジア近現代史・沖縄近現代史に目を向けるか？福知山をはじめ北近畿地域の近現代史をやるか？検討中。主宰者と世話人有志が協議して再開します。

地域創生セミナー

(趣旨)

市民の生涯学習の推進とともに大学を身近に感じてもらう場とすることを目的に、本学では市民学習事業を推進しています。この「地域創生セミナー」は、専門性を高めた講座としての性格を有します。また、本セミナーは、本学教員や他大学教員等により構成される地方創生研究会が中心となり、地域課題に対してテーマを企画し、大学内外からテーマに合った講師を招き実施します。

第1回地域創生セミナー

「ローカル」を活かした事業展開と雇用創出

1部「人口・雇用増の続く離島都市・石垣島一要因と課題」

2部「ローカルイノベーションによる福知山活性化について」

- ◆開催日時：7月1日 14時～17時 ◆会場・場所：福知山公立大学 4号館4階 会議室
- ◆講演者：内山 昭 氏（立命館大学上席研究員）、福田 利治氏（前中小企業サポートセンター長）
- ◆司会者：福知山公立大学地域経営学部 教授 芦田 信之

(概要)

第1回地域創生セミナーは、「ローカル」を活かした事業展開と雇用創出をテーマとして、第一部で地方都市・農村圏の課題と他地域の事例、第二部で福知山市の事例検討という2部構成でした。第一部では立命館大学上席研究員、前成美大学学長の内山昭先生から「人口・雇用増の続く離島都市・石垣島一要因と課題」についての研究発表がありました。第二部ではまず、前福知山市中小企業サポートセンター長の福田利治氏によるローカルイノベーションによる福知山活性化について」の講演が実施されました。これを受けて同氏が立ち上げられた産学官連携組織「パワーオンネット」の取り組みのうち、高機能小水力発電システムの開発について、畑七つの里づくり協議会の中島俊則氏、面状発熱体「PTC」を活用した新製品開発についてミタケ電子工業の高橋真也氏、さらに見守りシステムによる軽度認知障害の早期発見の実証実験についてアイトシステムの足立匡氏の3氏による地元発のプロジェクトの開発にまつわる話と今後の展開についての発表がありました。

(詳細・内容)

◆第1部

内山昭先生：「人口・雇用増の続く離島都市・石垣島一要因と課題」

国土の不均衡問題（大都市圏への過度集中と地方都市農村圏の停滞）が国土資源の未使用、非効率により近未来の日本にとって深刻な事態となりました。現政権の地方創生政策は十分な効果を上げていません。西・北ヨーロッパおよびUSAは20世紀後半にこれらの課題を基本的に解決しています。不均衡がなお拡大していることは、我が国の国土構造が後進国型の地域構造を脱却していないことを意味します。

ここで国土地域構造を類型化するとUUU類型（首都圏、大都市圏）、UUR類型（地方中心都市・農村圏、30万～50万規模）URR類型（地方都市・農村圏、3～20万規模）となりますが、URR

型の停滞の最大の要因は産業の停滞と雇用の不足です。離島都市石垣島は URR 類型ですが（人口 4.8 万人）20 年以上雇用が拡大し、人口が増加しています。宮古島市などに比べ例外的存在なのか、URR 類型の発展モデルになり得るのでしょうか。

人口動態、就業構造、従業者の増加の要因を調べてみると、観光関連産業、農畜水産業、海上保安本部、尖閣警備専従部隊の駐屯などがあげられます。今後、石垣市が目指しているのは、観光産業の高度化（量から質へ）亜熱帯農業、石垣牛のブランド化など全国市場へのマーケティング、高等教育機関の誘致などの政策実施です。

石垣市は URR 類型の発展モデルになります。福知山・北近畿への教訓としては農林水畜産業の六次産業化で高付加価値商品の開発、マーケティングが必要、高等教育機関・研究機関の拡充、環境保全産業などによる雇用創出が必要です。

コメンテータ 立命館大学教授 田中祐二先生のコメント

国土の不均衡問題はバランスドエコノミー論というより不均衡発展モデルが有効なのではないでしょうか。

石垣島の観光は新空港開港の効果であると思われるが、空港を持つ宮古島との差はどのように説明しますか。

福知山、北近畿への教訓のなかで観光産業を中心に考えていますか。

雇用創出効果のある中心産業を拡大・創出せよと結論付けているが、その産業とは何を指しているのか。またどのように創出を考えているのでしょうか。

高等教育に関して触れているが福知山公立大学の役割は何ですか。などについての質問およびコメントをいただきました。

◆第2部

福田利治氏：「ローカルイノベーションによる福知山活性化について」

福知山中小企業サポートセンター勤務時に「元気な会社は一味違う」という建機情報誌を刊行し、福知山の企業の持つ魅力を発信してきました。そして、産学官連携組織「パワーオンネット」を立ち上げ、福知山・北近畿の地域発の商品・サービス開発7つのテーマをまとめ、近畿経済産業局ローカルイノベーションプロジェクト登録をおこない採択されました。ローカルイノベーションプロジェクトとは平成28年9月近畿経済産業局が全国に先駆けて創設した登録制度の下、地域の稼ぐ力向上に挑戦する自治体主導の23プロジェクトであり、福知山市からは産学官連携組織「パワーオンネット」による新製品・新技術・新サービス開発事業です。本日はこれら7つのプロジェクトのうち、3つのプロジェクトの内容について、それぞれの主体者である方々からの具体的な事業紹介をしていただくことになりました。そして今後のプロジェクトの展開については、産学官の綿密な連携のもと、さらに金融機関やマスコミとも連携した「産学官金情」の体制構築が必要と考えます。この連携事業の遂行にあたっては、企業秘密の取り扱い、生み出されるハード・ソフトの成果物の所有権帰属などを取り決める必要があります。経済産業省が応援体制を構築しているので、今後の具体的な展開が核心となります。

中島俊則氏：高機能小水力発電システムの開発について

夜久野地域は農林業を基幹産業として発展してきましたが、急激な社会情勢の変化と過疎高齢化の進行、少子化など地域を取り巻く環境はより厳しく、いわゆる限界集落化が迫ってきています。しかしながら、地域の天然資源である水資源や森林資源を活かし長所としてアピールする戦略をたて、魅力あるまちづくりにつなげ若い人が安心して移住定住できる地域モデルを目指そうとしています。水力発電システムの事業化、観光資源化のほかにも、ミツマタの和紙加工産業、丹波漆の伝統産業によるまちおこし案も提案しています。

高橋伸也氏：面状発熱体「PTC」を活用した新製品開発について

PTC 商品開発をおこなっているミタケ電子工業は社員 30 人程度のものづくり集団です。

PTC とは温度が上昇するにともないヒーターの電気抵抗が増大する特性をもち、温度を制御する賢いヒーターとして床暖房やシートヒーターとして商品化できています。ニクロム線ヒーターやカーボンヒーターに比べ特異性と優位性があるものの認知度も低く、市場にさらされていません。会社も営業力がないのでものをつくっても売れないという現実があります。

足立匡氏：見守りシステムによる軽度認知障害の早期発見の実証実験について

独居高齢者の見守りシステム「イマシル」を開発しました。日常生活での行動を、通信装置を利用して見守るものです。このシステムを利用して日常生活リズムの乱れを観察し、軽度認知症（MCI）の早期発見プログラムを開発したいと考えています。そのためには多くの見守り対象者となるモニターによる検証が必要となりますが、会社による募集呼びかけだけでは、なかなかモニターが集まりません。地元発のシステムなので、行政によるモニター募集の支援が必要です。

セミナー報告

今回のセミナーのテーマであるローカルイノベーションとは、地域の魅力のブランド化、（ローカルブランディング）、地域のしごとの高度化（ローカルサービスの生産性向上）、地域企業の経営体制の改善・人材確保等、地域全体のマネジメント向上、ICT 等の利活用による地域の活性化、地域の総力を挙げた地域経済好循環拡大に向けた取組、総合的な支援体制の改善、観光業を強化する地域における連携体制などがあげられます。

第 1 部では、内山昭先生に、石垣島の産業発展が観光産業と農産物の 6 次産業化という石垣島の発展モデルの講演していただきました。成美大学の学長であったころから「地方都市・農村圏が持続していくためには産業が発展し、雇用がなければならない」というのが内山先生の持論でした。今回、福知山の地を離れられた立場ではあるが、地方都市・農村圏の発展のための事例紹介でした。第 2 部では、福田利治氏が立ち上げられた地元の元気企業の商品開発の 7 つのプロジェクトが近畿



経済産業局のローカル

イノベーションプロジェクトマップに取りあげられ（図 1）、今回セミナーに登壇いただいた 3 氏は、ローカルイノベーションとして、地元発の商品開発を行っておられる方々による商品紹介でした。しかしながら事業規模が小さく、知名度がないため、なかなか売り上げ増に結び付けることができません。行政の産業育成においては、民間企業への公平性も重要であります。地場産業の育成という観点から地元で頑張る企業を支援することも重要です。そのためにも「パワーオンネット」という産学官連携組織を通じて、ローカルイノベーションを支援していくという枠組がつけられました。

セミナー参加者は 12 名（うち登壇者 5 名）公開セミナーではありませんでしたが、司会者含め大学教員による内部関係者だけの討論会となりました。



地域創生セミナー

第2回 地域創生セミナー

学生が参画する多世代交流型自治活動を考える
～高齢者宅やシェアハウスに暮らし地域とつながる～

- ◆開催日時：12月8日 午後19時～21時 ◆会場・場所：市民交流プラザふくちやま 会議室3-3
- ◆講演者：福井大学大学院工学研究科准教授 菊地吉信先生
- ◆話題提供者：株式会社 KOHBU 共同経営者／ハウス事業部マネージャー 高橋健太氏
福知山公立大学地域経営学部 教授 谷口知弘

第1部 講演

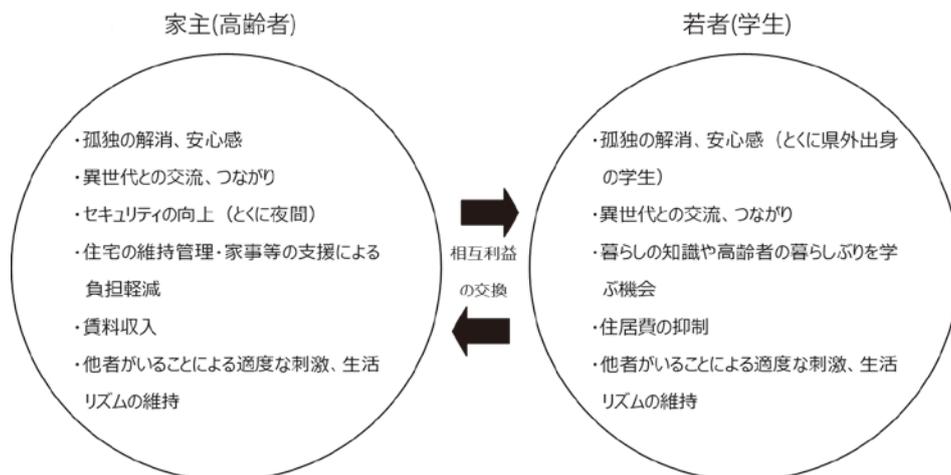
講演概要（講演者によるまとめ）

「異世代ホームシェア事業展開の可能性～福井大学と地域の取り組みから」

福井大学大学院工学研究科准教授 菊地吉信先生

菊地が指導教員を務める福井大学住環境計画研究室では、平成24年度より福井県社会福祉協議会と共同で異世代ホームシェア事業を行っています。異世代ホームシェアとは中高齢の家主が住む住宅の空き部屋を若者（学生）が借り、ひとつ屋根の下で生活する住まい方を指します。福井大学文京キャンパス周辺の戸建て住宅居住者と学生の双方にアンケートを実施したところ、回答のあった住民の33%、学生の58%がホームシェアに興味があると答えました。

かつての下宿や間借りと異なり、異世代ホームシェアでは家主と借り手の双方が、互いの要望に基づいて設定した一定のルールのもとで緩やかに支え合いつつ、各々自立した生活を送ることを目指しています。異なる世代の者同士がつながる機会を創出し、双方の不安や孤独を緩和します。他者がいることによる生活リズムへの適度な刺激、さらには住居費負担の軽減も期待できます。従来の下宿・間借りとの異なる点としては、自立した人同士が平等な立場で緩やかな共同生活を営む、下宿業を経営したことのない一般の世帯が大学生とつながる機会を創出する、双方が合意したルールに基づき日常生活の中で支え合う、冬季のみあるいは数か月程度の短期居住も可能にするなど多様な選択肢を用意する、といったことがあります。異世代ホームシェア先進国のスペインでは、学生の高齢者に対する



意識がホームシェア実施後に大きく好転した調査結果もあります。福井では、学生スタッフと社協職員が参加を希望する家主と借り手（学生）の間に入り、互いの要望を聞いた上でマッチングを行います。これまでに延べ3組がシェア生活を行っており、現在も新たなマッチングを進めています。

福井大学近くの公民館では月に一度、独居高齢者向けの集まりが開かれており、そこに住環境計画研究室の学生が事業のPRを兼ねて参加しています。異世代ホームシェアありきでなく、地域における世代間の交流と相互理解を育む中で、住まい方の選択肢の一つとして異世代ホームシェアが選ばれるのが理想的です。

地域によって求められる住まい方の選択肢は異なるので、異世代ホームシェアだけでなく、地域の既存ストック活用やコミュニケーションのデザインを意識することで、安心なコミュニティの実現を図りたいと思います。

第2部 ワークショップ

「福知山での学生の住まい方と地域社会の関わりを考える」

話題提供－1

「多文化共生のシェアハウス事業運営の現場から」

高橋健太氏（京都でシェアハウス事業、コミュニティ事業を運営する株式会社 KOHBU 共同経営者／ハウス事業部マネージャー）

シェアハウスに入居希望の理由として「外国語を学びたい」という回答が1割あります。（※1）シェアハウス運営者としては外国人が入居することでそのような希望者を獲得できるだけではなく、日常生活が異文化交流になるという魅力も提供できます。

共有スペースを住人が共同で使う生活は日本人だけだと、息苦しく、気を遣う場面になりがちですが、外国人が住むことで異文化交流として楽しく交流しながら「学べる」現場となります。

運営者としては、英語での対応も必要にはなりますが、彼らの価値観や日本への興味がシェアハウスの住人だけではなく運営者にとってもとても有意義な関係を与えてくれます。

※1 「貸しルーム入居者の実態調査の集計結果について」2014年 国土交通省

話題提供－2

「学生が参画する多世代交流型自治活動」

福知山公立大学地域経営学部地域経営学科 教授 谷口知弘

子どもからお年寄りまで、楽しく暮らせる地域社会を守り、創ることに、大学や学生が関わることで貢献できないかと、学生が関わる多世代交流型の住民自治活動の可能性を探る調査研究を平成28年より始めました。まずは、学生が地域に「住む」カタチとして「高齢者宅同居」と「空き家活用のシェアハウス」の可能性とを調べました。学生と高齢者が一つ屋根の下で暮らす「高齢者宅同居」について、学生の3割、地域住民の2割が関心を持っていることがわかり、可能性を感じています。学生の気持ちと地域住民の気持ちをお互いが「知り合う」ことから始めて、地域の人々と学生の心が通じ合うつながりが生まれる多世代交流型のご近所づくりを目指しています。

今年度から、京都府の次世代下宿「京都ソリデール」事業と連携して社会実験を始めようとしています。学生の地域への貢献に加え、学びの機会及び修学支援としての廉価な住居の提供に市民のみなさんのご協力をお願いしたいです。

セミナー報告

本セミナーでは、学生が地域に暮らす「住まい方」を変えることで、地域との関わりが深まり学生が参画する多世代交流型住民自治活動に発展する絵を描きつつ、その端緒となる新たな「住まい方」として「異世代ホームシェア」と「多文化共生型シェアハウス」に取り組む研究者と事業者をゲストに迎え、その実際と可能性を学びました。そして、講演と話題提供の後、参加者で気づきの共有など

話し合いを行いました。

講演では「異世代ホームシェア」に取り組まれる福井大学大学院の菊地吉信先生より、福井大学の実践事例を中心にその成果と課題についてお話しいただきました。実践事例の一つを取り上げテレビニュースの特集を拝見し、家主と借り手の若者の姿から双方に大きな喜びが生まれていることが読み取れ大きな可能性を感じました。一方、これまでにシェア生活が実現した事例は3組とのことであり、実現はたやすいことではないことも分かりました。

次に京都市でシェアハウス事業に取り組む高橋健太氏に多文化共生の視点でシェアハウスの事例をご紹介いただきました。この事業では入居者間の交流に加えて、シェアハウスの家主と入居者の交流を行われていました。このような交流の場づくりは単にシェアハウスを作るだけでは実現せず、企画運営する事業者の存在が重要であるとの示唆を得ました。

気づきを話し合うワークショップは、短い時間ではありましたが、4人ほどの小グループに分かれて賑やかに話し合いが行われ、最後にテーブルごとに気づきを報告し合いました。共通する気づきとして、一つの家を「シェア」する「住まい方」から家主と借り手（学生）や借り手同士には関係をつくることによって楽しみや喜びが生まれることを共有しました。

本セミナーでの学びを福知山市における学生が地域と関わる仕掛けとしての「シェア」する「住まい方」の実現に活かしていきたいと思えます。



第3回地域創生セミナー

高齢ドライバーによる交通事故の実態と運転行動 ～運転免許返納問題をめぐって～

- ◆開催日時：平成30年1月20日(土) 15時～17時 ◆会場・場所：市民交流プラザふくちやま 会議室
- ◆講演者：蓮花一己教授(帝塚山大学学長) ◆司会者：福知山公立大学 副学長 富野暉一郎
- ◆共催：北近畿地域連携会議

(概要)

本講演会は、地域創生セミナーの講演テーマと北近畿地域連携会議の研究会②-1「高齢者の運転免許返納による社会的影響を改善するための新たなシステムの構築と、その持続可能性にかかる社会経済モデル」が、外部講師を招聘して「高齢ドライバーによる交通事故の実態と運転行動」をテーマとする講演会を開催する意向が合致したため、北近畿地域連携会議と共催で開催することになりました。

当日の講演は、蓮花先生の提案で以下について、論点ごとに時間を区切って参加者と質疑応答を行いながら講演会が進行しました。

- ① 高齢ドライバーの運転には統計的にどのような特徴があるのか。
- ② 高齢ドライバーの安全対策に関する行政・警察当局の動向。
- ③ 高齢者の運転の特徴に対応した対策にはどのような考え方が必要か。
- ④ 具体的な対応策に関してなど具体的な内容としては、以下の論点が提示されました。

- (1) 統計的に高齢ドライバーの事故率は他の年代とそれと大きな違いはなく、高齢ドライバーは危険なので免許を返納するべきだという認識は正しくありません。ただし社会全体の高齢者人口比率が上昇しているために、事故の総数と、高齢ドライバー特有の事故が増加していることは、社会的課題としてしっかりとした対応が必要です。
- (2) 警察当局はこの状況を把握しており、免許返納以外の対応についても具体的な検討を始めています。
- (3) 対応策としては、高齢者の生活や社会的環境に応じてドライバー自身が複数の選択肢から対応を選ぶことができる社会システムの構築を進める必要があります。

- (4) 具体的には、地域の交通環境に対応した条件付などの新たな免許制度への移行、後付けできる安全運転装置の開発と普及、運転技術の維持向上のための効果的な講習制度、社会的コストの負担のなどを進める必要があります。

以上の論点をめぐって、多数参加した高齢ドライバーからも活発な議論への参加があり、非常に内容の濃い講演会となりました。



地域創生セミナー

第4回地域創生セミナー

自然災害とオペレーションズ・リサーチ

- ◆開催日時：平成30年2月10日 14時～17時 ◆会場・場所：福知山公立大学 4号館4階 会議室
- ◆講演者：大山 達雄氏(福知山公立大学客員教授・政策研究大学院大学名誉教授・日本OR学会会長)
- ◆司会者：福知山公立大学地域経営学部 教授 三品 勉

(概要)

昨年11月に本学客員教授に就任された大山達雄先生を講師に、「自然災害とOR」のタイトルでセミナーを行いました。大山先生は政策大学院大学名誉教授で、現在OR学会会長も務められている斯界の第一人者です。ORの自然災害対応に関する役割と、過去いく度かの洪水被害に見舞われる福知山市に対する新たな対応策を模索するセミナーでした。

セミナーは2部構成で、前半はOR(オペレーションズ・リサーチ)の概要とその応用研究であるORによる自然災害対策の事例報告を受けました。後半は福知山市の横山泰昭危機管理監による市の災害の歴史・対策などに関する概略説明を受け、ORがどのように関われるのかについて参加者全員で議論しました。参加者は約20名(半数は本学関係者、2名の福知山市関係者)でした。

(講演概要)

第1部

大山達雄先生：「自然災害とオペレーションズ・リサーチ(OR)」

(ORの概要)

ORの歴史と対象分野：

ORは科学的意思決定のための理論とその手法です。第2次大戦中に軍事戦略策定の手段として発生し、その後企業経営への応用、また近年は社会システム分析へと対象の幅を広げています。社会システム分析は人間社会の諸現象、諸問題に対して、統計解析、シミュレーション、数理モデル等に関する理論と手法を用いて分析、解決を図ろうとする試みで、特に公共政策分析への貢献には著しいものがあります。公共政策分析では様々な分野が対象となりますが、代表的なものは下記のとおりで、本日のテーマもその中心をなしています。

- (1) 都市データ解析
- (2) 交通データの定量分析
- (3) 事故、自然災害データの定量分析
- (4) 教育政策データの定量分析
- (5) エネルギー環境データ解析

ORの特徴：

ORは対象とするシステム全体の最適運用をはかることを目指し、そのために数理モデルを用いて状況分析・定式化を行います。モデル化のメリットを列举すると次のとおりです。

- (1) モデル化(単純化、抽象化)により、学際的な科学的方法の適用が可能となります。
- (2) 組織に関する合理的な判断に基づく意思決定のための情報提供が可能となります。
- (3) ハードな技術(固有技術)によって物を作るのではなく、ソフトな技術(管理技術)によって問題解決をはかることが可能となります。



[社会システム分析と OR]

17 世紀にドイツで起こった国勢学 (Staatskunde) を起源として、人口動態の数量的分析を中心とした国勢調査が始まりました。犯罪、病気などの社会現象、あるいは政治、経済、産業などの活動全般を分析することが目的でした。この活動にグラント (Jon Graunt)、経済学者ペティ (William Petty)、エンゲル係数のエンゲル (Ernst Engel)、ベルギーの数学者・天文学者ケトレー (Adolphe Quetelet) らが貢献しましたが、後日統計学の創始者として認められるケトレーが活躍していることが注目されます。事実この種の活動は「統計学」として広く世に知られるようになりました。一般に、社会システム分析と関連学問分野との関連は図 1 のとおりです。

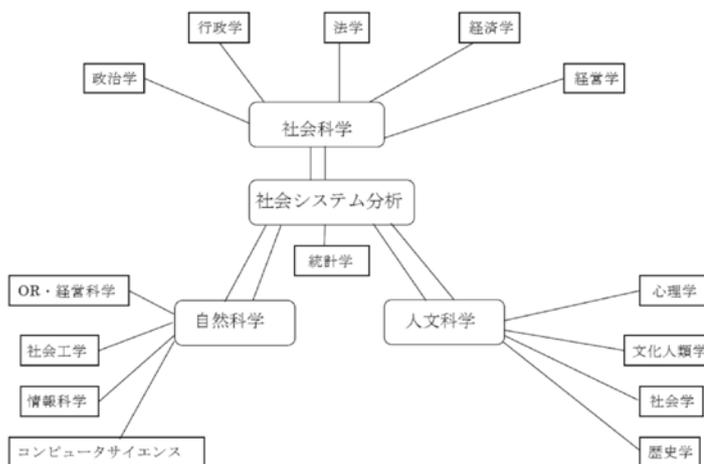


図 1 社会システム分析と関連学問分野

[OR のアプローチ方法]

数理モデルを活用しますが、その基本は定量的分析です。特にデータを重視しますが、データを加工して利用します。その意味で、統計データ解析は、数理モデル構築の前手順として必要かつ必須手続きです。数理モデル分析の概略は図 2 のとおりです。

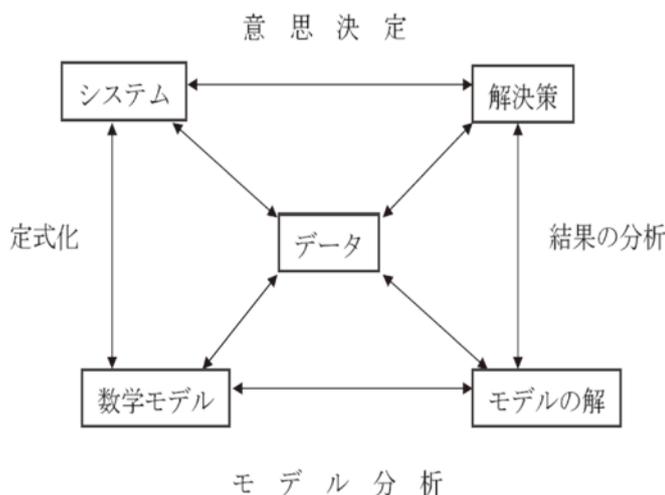


図 2 数理モデル分析の概略

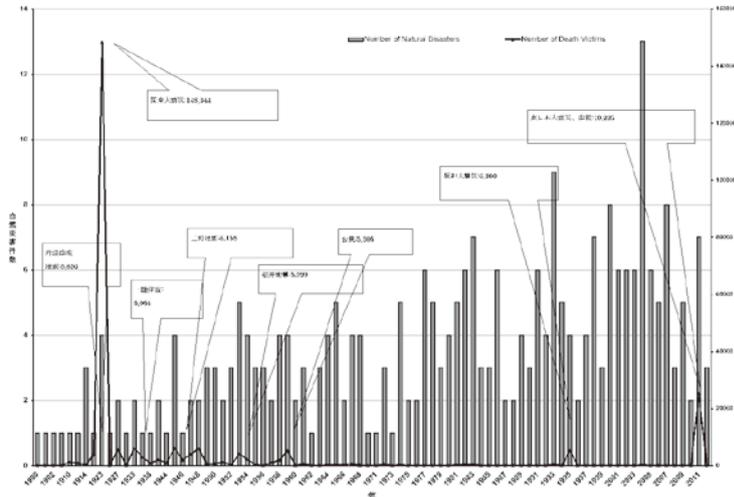
先ず統計データの定量分析から始め、その後数理モデルの分析をおこないます。それぞれの特徴は下記のようにまとめることができます。

統計データの定量分析：モデルを構築する際には、前段階、準備として定量データを詳細に分析することが必要であり、その中から問題が発見されると、必要とされるモデルはむしろ必然的に得られます。

数理モデル分析：問題が明確になると、モデルの概念設計、定式化、構築が行われます。定量データを詳細に分析することによって問題が明確化されれば、この操作はさほど困難ではないことが普通です。

[自然災害に対する分析事例]

論文「東日本大震災の影響と復旧・復興に関する定量的データ分析の分析」を例として OR の手順と結果を示します。データを分析するにはグラフ化をする事が有効です。



項目	地震				津波			
	合計	平均	標準偏差	最大値	合計	平均	標準偏差	最大値
i	3,950	0.28	25.98	3,022	5,389	0.39	32.29	3,022
ii	11,579	0.83	51.60	5,131	5,242	0.38	31.02	3,358
iii	7,832	0.59	50.92	5,502	865	0.07	5.32	441
合計	23,361	0.57	44.35	5,502	11,496	0.28	26.23	3,358

地震と津波による死者・行方不明者数に関する基本統計量 (1900~2012)

次にモデル作成をおこないます。

地震については人的被害をもたらすのは大部分がマグニチュード 6.0 から 7.4 以下であることも分かります。ここで地震の各種特性要因と津波の発生確率との関係を表わす重回帰モデルを考えます。

$$y = \beta_0 + \beta_1 x_1 + \dots + \beta_k x_k + \varepsilon = x\beta + \varepsilon,$$

ここで $x = (1, x_1, \dots, x_k)$, $\beta = (\beta_1, \dots, \beta_k)t$ とします。また従属変数 y は津波が発生するときに 1、そうでないときに 0 をとるものとします。独立変数を震源の深さ、マグニチュードに基いて最小自乗モデルプロビットモデル、ロジットモデルの推計を行ないます。結果は下表のようにまとめることができます。

独立変数	LPM (OLS)	Probit (MLE)	Logit (MLE)	独立変数	Probit	Logit
マグニチュード	0.090 [*] (0.044)	0.374 [*] (0.159)	0.646 [*] (0.293)	マグニチュード	0.144 [*] (0.060)	0.154 [*] (0.067)
震源深さ	-0.003 ^{***} (0.000)	-0.016 ^{***} (0.004)	-0.028 ^{***} (0.007)	震源深さ	-0.006 ^{***} (0.001)	-0.006 ^{***} (0.001)
位置	-0.561 ^{***} (0.077)	-1.730 ^{***} (0.310)	-2.904 ^{***} (0.567)	位置	-0.666 ^{***} (0.125)	-0.692 ^{***} (0.146)
定数	0.819 [*] (0.355)	0.530 (1.234)	0.796 (2.269)	定数	0.144 [*] (0.060)	0.154 [*] (0.067)
N	178	178	178			
LEV		-77.04	-77.10	限界影響 $y = Pr$ (Tsunami) (predict)	0.6040	0.6075
R ²	0.393					
Pseudo-R ²		0.346	0.346			

LPM、ロジット (Logit)、プロビット (Probit) モデルによる津波発生に伴う限界影響

これらのまとめた災害データと他の情報、例えば農家1世帯あたりの農業生産額の成長率を合わせて新しい情報を得る工夫をします。

2011年東日本大震災が及ぼした影響をより定量的に分析する重回帰モデルをつくります。

$$y_{i,t} - y_{i,t-1} = \beta_0 y_{i,t-1} + \beta_2 Z_{i,t} + \beta_3 GEJE_{i,t} + \mu_t + \eta_t + \varepsilon_{i,t}$$

ここで $y_{i,t}$ は県 i の期 (年) t における県民1人あるいは1世帯あたり生産額の成長率、 Z は各種政策変数、 $GEJE_{i,t}$ は県 i が期 (年) t に東日本大震災の影響を受けた場合に1、そうでないときに0をとるような2値変数とします。そして μ_t , η_t はそれぞれ期 (年) t あるいは県 i に付随する効果を現わす項、そして $\varepsilon_{i,t}$ は誤差項です。

結果は下記の表としてまとめ、政策提言の資料とします。

東日本大震災の農業生産額に及ぼす影響 (システム GMM)
 従属変数: 農家1世帯当たり農業生産額の成長率

	全期間効果 (I)	短期影響効果 (II)	長期影響効果 (III)
自然災害変数			
2011年東日本大震災	-0.0507* (-1.80)	-0.0641** (-2.17)	-0.103* (-1.67)
制御変数			
農家1世帯あたりの前年度生産額(log)	-0.0220** (-2.51)	-0.0871*** (-4.83)	-0.268*** (-2.99)
教育(log)	0.0894 (0.45)	1.383* (2.65)	2.072* (1.77)
農家1人あたりの農業支出(log)	-0.0165 (-1.88)	0.0143 (1.60)	0.0379 (0.52)
農家1人あたり災害防衛経費支出(log)	-0.00628** (-3.47)	-0.0260*** (-8.22)	-0.0129 (-0.83)
農家1人あたり生産額前支出(log)	0.0447*** (5.00)	0.0567** (3.05)	0.205*** (2.59)
インフレ率(log(100+%CPI成長率))	-2.447*** (-7.47)	-2.540*** (-4.05)	-2.112 (-1.63)
定数	-10.86*** (6.03)	-5.547 (1.34)	-0.540 (-0.07)
データ数	550	108	48

注: () 内数値は t-統計量 ***p<0.01**, p<0.05, *p<0.1 はそれぞれ 1、5、10%有意を示す

第2部

横山泰昭氏: 「福知山市が経験した2つの災害」

自然災害に対応する福知山市と手法としてのORアプローチに対する議論

平成25年台風18号災害(外水氾濫)と平成26年8月豪雨災害(外水氾濫)について報告がありました。18号台風は9月15日から16日にかけて、最低気圧が965hpa、時間最大雨量29mm/hを記録し、779戸が被害を受けました。一方豪雨災害では、都市排水機能を超えた急激で激甚な降雨があり、広範囲な市街地の内水氾濫です。

福知山市は今までの経験を踏まえて、由良川の水位上昇が最大の脅威であるとして、堤防を高くする対策また住民避難体制強化などを行ってきました。

これに対してフローアから、由良川の水位が想定値を超える可能性が出てきた場合、堤防のどこかの放水弁から水を抜くシステム整備が必要との意見がありました。

福知山市に多くの耕作放棄田んぼがあるので、非常時に活用できる方法を考えるべきです。また一般に森林には保水機能がありますが、この活用も有効であるとのアドバイスもありました。

一般に、緊急時の避難対策は第一優先されますが、森林対策など行政の他分野との連携が不可欠であり、市としての総合的な政策として長期的な防災対策が必要との意見です。

一方ORはデータ分析が鍵となり、事実に基づく対応が求められています。モデルは解を得ることのみを目的とせず、操作性が重要です。操作性を駆使してパラメトリック分析をはじめとして、可能な限り多くの情報を得るべきです。それがモデルの妥当性、正当性のチェックへとつながります。

議論された総合的な政策研究あるいは政策評価は、未完成で多くの未開拓な分野を有しています。

行政の各種活動を事業ごとに個別に把握、評価する試みはありますが、関連する分野全体を多面的、多元的、かつ動態的なシステムとして捉えるアプローチは現在皆無に近いです。各種政策がどのように企画され、どのような機能と成果が期待され、達成されるかを定性的、定量的、かつ客観的実証的に学問的理論と手法に基づいて分析を試みる必要があります。分析に際しては、それぞれの政策を必要性、効率性、有効性、公平性、優先性等をはじめとする種々の観点から多面的、多元的、かつ動態的に眺めることに加えて、経済、社会、政治、環境といった各種要因に基づく状況、制約条件の不確実性、不確定性を考慮することが求められています。

公共部門はORあるいは経営科学、経営工学といった分野の方法論を適用するのに最も適した問題を有する“新たな領域”です。古くて新しい領域ともいうべき公共部門は非常に多くの未知、未解決の問題を抱えた分野です。多種多様な新たな問題が生まれ、それらに対する解決策も次々と提案され、公共政策分析は今後ますます発展が期待されます。

全体としてORの現状と将来像を知ることができ大変有意義なセミナーでした。



子ども・若者学び支援事業

(趣旨)

本事業は、本学の有する「知」と「ネットワーク」を活用して、子ども・若者の学びとキャリア教育を支援するものです。

具体的には、下記2つの講座を実施しました。

児童館国際交流会

◆開催日時：平成29年7月～平成30年2月

本事業の目的

- ① 児童達の学習環境多様化を目指し、小さい頃から国際的文化交流活動を通じて、異文化理解と友好親善を深めること。
- ② 本学学生が主体となり、地域に貢献すると共に、学生のイベント企画能力、運営能力等を鍛え、さらに、本学学生の異文化コミュニケーション能力を高めることを目指している。
- ③ 児童館との交流会を通じて、外国籍市民が日本の純粋な子ども達との交流で、更に地域への愛着心が強くなり、安心して福知山市で暮らせることを目的としている。
- ④ 日本語を学ぶために日本語教室に通う外国籍市民が交流会を通じて、自分の国の文化等を子どもに教え、自分の国の料理を子ども達と一緒に作る中で、日本語能力を高める、交流会を日本語学習者の実践の場となることを狙っている。

事業概要

- ① 外国人講師による簡単な外国語の日常会話の学習
- ② 外国の教育、歴史、地理、自然、社会、食文化、日常生活等の紹介
- ③ 外国の料理作り体験、試食会
- ④ 外国のダンス、伝統文化の披露など
- ⑤ 児童達による感想発表

実施について

- ① 実施者：福知山公立大学教員、日本人学生及び留学生；児童館職員；地域在住外国人市民。
- ② 対象者：小学生、地域老人会、婦人会。(児童館による参加者の募集)
- ③ 実施場所：各児童館
- ④ 実施時間：各児童館の年間スケジュールに合わせる。
- ⑤ 実施内容：各児童館との打合せで決める。

実施役割

児童館側	大学側
<ul style="list-style-type: none"> ▷ 料理器具、プレゼン用具、場所などの提供 ▷ 参加者の募集 ▷ 料理食材の購入 ▷ 感想文の作成など 	<ul style="list-style-type: none"> ▷ プログラム作成 ▷ プレゼン用教材作成 ▷ 大学内広報宣伝 ▷ 外国籍市民依頼など

実施スケジュール

日 時	児 童 館	概 要	参加者数
第1回 7月8日(土) 9:30～14:00	前田児童館	▷児童館職員(会場設営等) ▷地域経営学部 助 教 張 明軍(総括) 2年生 小林拓真(司会)	▷児童館職員5名; ▷児童24名(保護者なし); ▷本学大学生5名 (うち中国留学生2名)。 ▷本学教員 1名
第2回 7月15日(土) 9:30～14:00	庵我児童館	▷児童館職員(会場設営等) ▷地域経営学部 助 教 張 明軍(総括) 2年生 小林拓真(司会)	▷児童館職員4名、 ▷児童4名(保護者なし) ▷福知山在住中国籍市民1名 ▷本学教員 1名
第3回 10月7日(土) 10:00～14:30	丘児童センター	▷児童館職員(会場設営等) ▷地域経営学部 助 教 張 明軍(総括) 2年生 小林拓真(司会)	▷児童センター職員4名、 ▷児童9名(保護者なし) ▷本学大学生7名 ▷本学教員 1名
第4回 1月20日(土) 10:00～14:30	南有路児童館	▷児童館職員(会場設営等) ▷地域経営学部 助 教 張 明軍(総括) 1年生 鈴木杏梨(司会)	▷児童館職員3名、 ▷児童15名(保護者なし) ▷本学大学生4名 ▷綾部在住インドネシア籍市民 2名、コーディネーター1名 ▷本学教員 1名
第5回 2月10日(土) 10:00～13:30	堀児童館	▷児童館職員(会場設営等) ▷地域経営学部 助 教 張 明軍(総括)	▷児童館職員4名、 ▷児童9名(保護者1名) ▷綾部在住タイ王国籍市民 2名、コーディネーター1名 ▷本学教員 1名

実施の流れ

第1回：中国料理「水餃子を作ろう」

開会挨拶と自己紹介→中国の概況と食文化についての説明→食文化交流タイム「水餃子作り体験」→太極拳披露、体験→雀部よっちょれ踊り披露→全員合唱(エビーバともだち)→感想文→集合写真、終わりの挨拶→解散。

第2回：中国料理「ジャージャー麺を作ろう」

開会挨拶と自己紹介→中国の概況と食文化についての説明→食文化交流タイム「ジャージャー麺作り体験」→太極拳披露、体験→中国子どもゲーム→感想文作成、発表→集合写真、終わりの挨拶→解散。

第3回：中国料理「八宝粥を作ろう」

開会挨拶と自己紹介→中国の概況と食文化についての説明→食文化交流タイム「八宝粥作り体験」→試食会→太極拳披露、体験→中国子どもゲーム→感想文作成、発表→集合写真、終わりの挨拶→解散。

第4回：インドネシア料理「サユリ・ソップを作ろう」

開会挨拶と自己紹介→インドネシアの概況と食文化についての説明→食文化交流タイム「サユリ・ソップ&インドネシア風ゼリー作り体験」→試食会→感想作成、発表→「児童合唱(365日の紙飛行機)」→集合写真、終わりの挨拶→解散

ゲスト講師：ムハマッド・ルスリ 様、ゼニ・プルマナ 様(インドネシア)

第5回：タイ料理「タイスキを作ろう」

開会挨拶と自己紹介→タイ王国の概況と食文化についての説明→食文化交流タイム
 「タイスキ作り体験」→試食会→タイの伝統舞踊披露→「何でも聞くタイム」→集合写真→感想作成、発表→終わりの挨拶→解散

ゲスト講師：森津サムアーン 様、内藤シリンドイプ 様（タイ王国）

※第4回と第5回の実施にあたり、福知山市日本語教室、綾部市日本語教室のアドバイザーの諏訪喜栄子様のご協力を頂いて実施しました。

第1回実施風景



第2回実施風景



第3回実施風景





第4回実施風景



第5回実施風景



子ども・若者学び支援事業

富野副学長の天文教室

美しい宇宙のことをもっと知ろう

◆開催日時：平成 29 年 12 月 22 日(金) ◆会場・場所：福知山市児童科学館
◆講演者：福知山公立大学 副学長 富野暉一郎

宇宙望遠鏡ハッブルが地球の衛星軌道に打ち上げられてから約 30 年間経ちます。この間ハッブルは、空気の存在による観測の限界という地球上での制約から解放された観測環境を活用して、人類の宇宙に関する知識を飛躍的に拡大しただけでなく、宇宙そのものを観測という事実から理解する道を切り拓きました。そこに拓かれた宇宙の姿は、私たちの想像を絶する美しい世界であり、またその美しさが私たちを宇宙の壮大な神秘を解き明かしたいという人類のロマンをかきたてるものです。

今回開催された市内の小中学生に向けた天文教室の第 1 の目的は、このすばらしい宇宙の姿とロマンを、これからの人類の未来を担う少年・少女たちにぜひ知ってもらい、心を宇宙に向けてもらいたいということでした。

第 2 の目的は、宇宙がいかに広く気が遠くなるほど大きなものであっても、私たち人類はその宇宙を理解し私たちの関係をしっかりと解きほぐす力を持ったすばらしい存在であることを知ってもらいたいということでした。そのために講演では、天文学者を身近な人たちとして紹介すること、そしてその天文学者が宇宙を取り扱う方法として発達させた、べき乗の世界（ここでは 10 の n 乗 = 10^n ）を使って、日常の世界から宇宙全体までを 29 の段階で説明することをハッブルが撮影した画像を使いながら説明しました。

そして第 3 の小さな目的は、この講演会に親子や家族と一緒に参加して、壮大な宇宙に包まれた私

子ども・若者
学び支援事業

富野副学長の 天文教室

美しい宇宙のことを
もっと知ろう！

日時 平成29年12月22日(金)
第1部 17:00~19:30(受付16:30)
第2部 19:00~20:30(受付18:30)

会場 福知山市児童科学館
福知山市児童科学館7F(7階) 福知山公立大学内

対象 福知山市内を中心とする
小中学生およびその保護者等
小学生の参加は保護者同伴で、中学生は保護者同伴で参加していただくこと、
小学生の参加は保護者同伴で、中学生は保護者同伴で参加していただくこと、
小学生の参加は保護者同伴で、中学生は保護者同伴で参加していただくこと、

定員 保護者等を含めて全部80名程度(小学生のみ)

講師 福知山公立大学 副学長
富野 暉一郎
(博士 理学)

申し込み方法(概要)
1. ユーロもしくはパスポートにてお申し込みください。
必ず、第1部・第2部のご希望をご記入ください。
参加される小中学生の氏名とご連絡先(住所・電話番号)と
小学生の場合は住所と学年の必要事項をご連絡先にご送付
ください。申し込みは無料です。

申込締切: 12月4日(月)~13日(水)
→ 定員に達した場合は、締め切り後に抽選となります。

問合せ先
福知山公立大学市医学部・キャリア支援センター
TEL: 0773-24-7151
富野副学長研究室(申し込みは保護者専用) TEL: 0773-24-7152

1. メール: kita-re@fukuchiyama.ac.jp
2. FAX: 0773-24-7152

福知山公立大学 市医学部 市キャリア支援センター 福知山公立大学市医学部・キャリア支援センター



たちのあり方を知ることを通じて、家庭の中に何か新しい関係が芽生えることが期待できるのではないかとということでした。

今回の講演に対する反響は大きく、沢山の参加を得ることができました。

講演自体は初めての試みであったために募集方法や開催方法、そして講演の内容と時間配分等、改善すべきところはありますが、来年度以降も、要望が集まれば続けていきたいと考えています。

京都高齢者大学校 北近畿校

京都高齢者大学校 北近畿校

永い人生における教養の向上、仲間づくり、生きがいの創造、よりよい生活設計や積極的な社会参加を行う

◆開催日時：平成 29 年 9 月～平成 30 年 1 月 ◆会場・場所：福知山公立大学 4 号館
主催 / 共催：福知山公立大学

【概要】

京都高齢者大学校は、「永い人生における教養の向上、仲間づくり、生きがいの創造、よりよい生活設計や積極的な社会参加を行う」ことを目的に 2013 年に京都市内で開校した関西文理総合学園、長浜バイオ大学が運営する社会人、高齢者の学びの場で 2017 年度は京都校には約 500 名の方が受講されています。

2017 年 9 月、従来から課題となっていた北部地域の皆さんにも学びの場を提供しようと北近畿校を開校することにいたしました。開校は福知山公立大学に共催いただくことで実現しました。福知山公立大学には教室をお借りするとともに、井口学長に校長を引き受けて頂く等、全面的な支援を頂きました。

開校にあたっては、北近畿校という校名を採用しましたように、京都北部にとどまらず、経済圏、文化圏が重なる北近畿圏全体の文化と学びの向上に資するとともに、福知山公立大学の周知と発展にも貢献したいと考えております。

2017 年度は、9 月という年度途中からの開校ということもあり時事問題、歴史、健康の 3 講座でスタートを切りました。講座には急な呼びかけにも関わらず 3 講座に 127 名の受講を頂き、大変好評をいただきました。11 月からは毎月、講座の状況を伝える北近畿校通信を第 3 号まで発行しました。開校に当たっては京都新聞、両丹日日新聞などマスコミも積極的に報道頂きました。

今年度の講座内容は以下の通りですが、平成 30 年度は講座数も今年度の 3 講座に新たに自然科学講座と美術鑑賞講座を加えた 5 講座に増やし各講座とも年間 8 回開催と充実を図り、200 名を超える受講者を目指しています。

【開学記念公開講座】

第 1 回：遺伝子組み換え食品は本当に危険か

講 師：京都高齢者大学校学長 長浜バイオ大学学長 蔡 晃植 氏

日 時：6 月 14 日（水）14 時～16 時

場 所：福知山公立大学 4 号館 4 階 401 号

第 2 回：アンサンブルのひとつとき

講 師：白井 篤（ヴァイオリン）氏：NHK 交響楽団 2nd ヴァイオリン次席奏者

杉江 洋子（ヴァイオリン）氏：京都市交響楽団第二ヴァイオリン副主席奏者

北口 大輔（チェロ）氏：日本センチュリー交響楽団首席チェロ奏者

金本 洋子（ヴィオラ）氏：京都市交響楽団ヴィオラ

日 時：7 月 19 日（水）14 時～16 時

開講記念 公開講座のご案内

第1回 蔡 晃植
遺伝子組み換え食品は本当に危険か
京都高齢者大学校学長 長浜バイオ大学学長
日時：6月14日（水）14:00-16:00
会場：福知山公立大学 4号館4階401号 受講料：500円

第2回
アンサンブルのひとつとき
日時：7月19日（水）14:00-16:00
会場：福知山公立大学 4号館4階401号 受講料：500円

第3回 演 福子
現代日本の経済政策を問う
福知山大学ビジネススクール 教授
日時：8月27日（土）14:00-16:00
会場：福知山公立大学 4号館4階401号 受講料：500円

※開校・開講準備中誠にありがとうございます。FAQ までお気軽にお問い合わせください。（福知山校、長浜バイオ校）
開校準備中につき、各校に申し込みの受付がまだ完了していません。

京都高齢者大学校北近畿校校 申 込 書 FAX: 0773-24-7152

公開講座（の申し込み、受付等） 1. 講 師 2. アンサンブル 3. 経済政策
公開講座（の申し込み、受付等） 1. 歴史文化 2. 健康講座 3. 特別講座

お名前 _____ 住所 _____ 電話 _____ FAX _____
性別 _____ 年齢 _____ 職種 _____

場 所：ハピネスふくちやま市民ホール

第3回：現代日本の経済政策を問う

講 師：同志社大学ビジネススクール 教授 浜 矩子 氏

日 時：8月22日（火）14時～16時

場 所：福知山公立大学 4号館4階401号

【講座】

○時事講座 毎月第3火曜日 14時～16時

回 数	日 程	会 場
第1回	9月19日（火）	福知山公立大学 4号館 4階 4403 教室
第2回	10月17日（火）	
第3回	11月21日（火）	
第4回	12月19日（火）	
第5回	1月16日（火）	

○歴史講座 毎月第3水曜日 14時～16時

回 数	日 程	会 場
第1回	9月20日（水）	福知山公立大学 4号館 4階 4401 教室
第2回	10月18日（水）	
第3回	11月15日（水）	
第4回	12月20日（水）	
第5回	1月17日（水）	

○健康講座 毎月第3木曜日（但し第2回は第3金曜日） 14時～16時

回 数	日 程	会 場
第1回	9月21日（木）	福知山公立大学 4号館 4階 4402 教室
第2回	10月20日（金）	
第3回	11月16日（木）	
第4回	12月21日（木）	
第5回	1月18日（木）	



まちびとゼミ

(趣旨)

「教育のまち福知山」では、伝統文化や歴史、芸術からスポーツに至るまで、多くの人々や団体が創作や研究、実践に取り組んでおり、作家や指導者も多数いらっしゃいます。また、交通の要衝として古くから商業が集積してきた「商業のまち福知山」は、その土地柄、高い専門性を有した事業者や職人も多くおり、このような高い専門性を有する方々は市民とっても大学にとっても重要な地域資源です。

そこで、このような市民が講師となってつくる学びの場を「まちびとゼミ」と名付けて、学生と市民が交流を楽しみながら、学びを深める場を企画しました。

本年度は「まちびとゼミ」の初年度となっており、「おもろい書道」「福知山の歴史文化に触れる～学ぶ！習う！踊る！福知山踊りとドッコイセまつり」の2つの試みを実施しました。

おもろい書道

書の面白さや、書を通じての公立大学生と地域の方との交流

◆開催日時：第1回平成29年5月27日(土)、第2回6月24日(土)、第3回7月15日(土)、第4回9月30日(土)、第5回10月28日(土)、いずれも10時～11時30分 ◆会場・場所：福知山公立大学 北近畿地域連携センター Kita-re カフェスペース ◆講演者：谷口蘇光先生(福知山在住の書道家)

はじめての試みとなる今年度は、地域社会の学びと交流の場として長年事業を積み重ねてこられた福知山市立日新地域公民館(コミュニティセンター)の経験と知恵をお借りして書道教室を開催しました。

学生の参加は1年生が2名と少数でしたが、書道を学びながら市民と交流を楽しんだことで、教養を高めるとともに多世代交流を通して多くの気づきを得、社会力を高めたと推察します。また、見知らぬ土地に暮らして数ヶ月の学生にとっては、大学の事業を通して得た福知山市民とのつながりは、安心を得るとともに今後の学生生活をより豊かにする関係形成になったと考えます。

第1回 おもろい書道

日 時：平成29年5月27日(土) 10時～11時30分

会 場：福知山公立大学 北近畿地域連携センター Kita-re カフェスペース

講 師：谷口蘇光先生(福知山在住の書道家)

参加者：7名(内、学生2名)

内 容：・開講式の後、全員の自己紹介を行い、学生と市民の交流から始まりました。
・作品づくりの概要説明と名前の練習を行いました。



第2回 おもろい書道

日 時：平成29年6月24日(土) 10時～11時30分

会 場：福知山公立大学 北近畿地域連携センター Kita-re カフェスペース

講 師：谷口蘇光先生(福知山在住の書道家)

参加者：8名(内、学生2名)

- 内 容：・お手本から自分の書きたい言葉を選び清書し、お皿・陶板に言葉を写しました。
 ・学生参加者は、書道の合間に福知山の印象について市民と語り合うなど少しずつ交流が進みました。



第3回 おもしろい書道

- 日 時：平成 29 年 7 月 15 日（土）10 時～11 時 30 分
 会 場：福知山公立大学 北近畿地域連携センター Kita-re カフェスペース
 講 師：谷口蘇光先生（福知山在住の書道家）
 参加者：8 名（内、学生 2 名）
 内 容：・額作品にする言葉や文字の練習を行いました。
 ・第3回目となり、顔も覚え交流が深まってきました。



第4回 おもしろい書道

- 日 時：平成 29 年 9 月 30 日（土）10 時～11 時 30 分
 会 場：福知山公立大学 北近畿地域連携センター Kita-re カフェスペース
 講 師：谷口蘇光先生（福知山在住の書道家）
 参加者：7 名（内、学生 1 名）
 内 容：・額作品の言葉や文字の練習を行いました。
 ・それぞれに個性がでてよい作品に仕上がりました。



第5回 おもしろい書道

- 日 時：平成 29 年 10 月 28 日（土）10 時～11 時 30 分
 会 場：福知山公立大学 北近畿地域連携センター Kita-re カフェスペース
 講 師：谷口蘇光先生（福知山在住の書道家）
 参加者 7 名（内、学生 1 名）
 内 容：・額作品にする言葉や文字の清書を行いました。
 ・閉校式の後、最後の記念撮影を行い和やかに終了できました。



まちびとゼミ

福知山の歴史文化に触れる～学ぶ！習う！踊る！
福知山踊りとドッコイセまつり

郷土芸能を学び、体験を通して福知山の歴史文化に関心を持ち地域への愛着を醸成する

◆開催日時：平成29年7月19日(水)、8月10日(木) ◆会場・場所：福知山公立大学 4号館4階401教室
福知山商工会議所4階

市民を講師に学びと交流の場を作る【まちびとゼミ】。本講座では、「福知山の歴史文化に触れる」をテーマに、福知山踊振興会の方々を講師に福知山が誇る郷土芸能「福知山踊り」の歴史や魅力を学び、踊りを体験しました。

全国から集う福知山公立大学の学生が福知山の歴史文化に触れる機会は多くはありません。そこで、「福知山踊り」をテーマに郷土芸能を学び、体験を通して福知山の歴史文化に関心を持ち地域への愛着を醸成するとともに、地域特性を理解する一助とすることを目的として開催しました。

加えて、近年踊り手が減少し停滞気味である福知山ドッコイセまつりに学生が参加することは大学の地域貢献活動としても重要であると考え企画しました。

第1回 学ぼう！～福知山踊りと福知山ドッコイセまつりの歴史と魅力

日 時：平成29年7月19日(水) 16:10～17:40

会 場：福知山公立大学 4号館4階4401教室

講 師：レクチャー：福知山踊振興会代表田村卓巳氏、
踊り体験：福知山踊振興会

参加者：約25名(一般参加約7名、学生9名、福知山踊振興会8名)

内 容

福知山踊りの伝統継承に取り組む福知山踊振興会のみなさんを講師に迎えて開催しました。福知山踊振興会代表の田村卓巳さんより福知山踊りの歴史や現在の活動についてお話を頂いた後、福知山踊振興会の踊り手の方々7名から主に手振りを教えていただきました。16型の手振りを学び、参加者全員で大きな輪を作り音楽に合わせ、「ドッコイセ、ドッコイセ」と掛け声もかけながら踊りました。福知山踊振興会の方々や市民と学生が共に踊ることで交流の良い機会ともなりました。

第2回 習おう！踊ろう！～ドッコイセまつり踊り練習会

日 時：平成29年8月10日(木) 19:00～20:00

会 場：福知山商工会議所4階

参加者：約40名(一般参加約40名、学生1名)

*福知山ドッコイセまつり実行委員会主催の第2回ドッコイセまつり踊り練習会と共同で開催しました。

内 容

福知山ドッコイセまつり実行委員会主催の第2回ドッコイセまつり踊り練習会と共催で開催しました。第2回目は、福知山商工会館を会場に行われました。約40名の参加があり熱気ある練習会となりました。ただ、学生の参加が1名のみであったことは残念ではありましたが、参加した学生は多くの市民と共に踊り大いに交流を楽しんでいました。



2回の講座を終え、本番の福知山ドッコイセまつりには、福知山出身の学生が1名参加、教員1名と連を組み踊りの輪に加わりました。2名という最小人数の連ではありましたが、開学2年目にして初めて福知山公立大学として連を出し踊りに輪に加わった意味は大きいと考えます。次年度の取り組みに繋がりたいと思います。



社会人キャリア支援事業

まちづくりの理論と手法～知恵を集める伝える方法

- 第1回 協働型まちづくりとワークショップ
- 第2回 協働の過程をわかりやすく楽しくする対話の見える化
- 第3回 構想や思いを伝えるプレゼンテーションとプレゼンス

◆開催日時：平成30年2月21日(水) 2月28日(水) 3月7日(水) ◆会場・場所：市民交流プラザふくちやま
◆講演者：福知山公立大学 地域経営学部 教授 谷口知弘、 篠原幸子氏、
福知山公立大学 地域経営学部 准教授 杉岡秀紀

多様な主体が協働で進めるまちづくりを創造的にするための知恵を集める「ワークショップ」と伝える「プレゼンテーション」の基本的な理論と技法を体験的に学び、現場に活かす技術を身につけることを目的に実施しました。

【社会人キャリア支援「まちづくりの理論と手法～知恵を集める伝える方法」】

第1回 協働型まちづくりとワークショップ
～知恵を集め協働で未来を創造する手法
「ワークショップ」とは

日 時：平成30年 2月21日(水) 19時～21時
会 場：市民交流プラザふくちやま 会議室 4-1
講 師：福知山公立大学 地域経営学部 谷口 知弘 教授
参加者：31名

第2回 協働の過程をわかりやすく楽しくする
対話の見える化

～思いを引き出し伝える話し合いの視覚化を学ぶ。体験する。
日 時：平成30年 2月28日(水) 19時～21時
会 場：市民交流プラザふくちやま 会議室 3-2
講 師：NPO 法人場とつながりラボ home's vi 篠原 幸子 氏
参加者：20名

第3回 構想や思いを伝えるプレゼンテーションとプレゼンス
～聞き手の心に火をつける！プレゼンテーション術

日 時：平成30年 3月7日(水) 19時～21時
会 場：市民交流プラザふくちやま 会議室 4-1
講 師：福知山公立大学 地域経営学部 杉岡 秀紀 准教授
参加者：21名





〈第 1 回〉



〈第 1 回〉



〈第 2 回〉



〈第 2 回〉



〈第 3 回〉



〈第 3 回〉

福知山公立大学公開講座
『企業経営』分野の理論と実践をお伝えします
アンケート集計結果

第一部「ヒット商品の極意」 講師：福知山公立大学教授 平野 真
 第二部「変貌する国際物流と舞鶴港の可能性」 講師：福知山公立大学教授 篠原 正人

【アンケート実施概要】

参加者数	30名
回答者数	24名
回収率	80%

【Q1】「ヒット商品の極意」について

1. 内容はどうでしたか。

満足	やや満足	普通	やや不満	不満
19	5	0	0	0

- ・聞いているだけでワクワクし、刺激をたくさん受けました。
- ・人間心理に基づいた価値の付加が必要になることが理解できました。
- ・日本の水道水をアジア・アフリカ・南米に売れないものでしょうか。
- ・新しい価値創造の話がおもしろかったです。
- ・地方の事例などが参考になりました。
- ・成功例が中心の話だったが、どこでも成功するわけではないと思います。発想することが重要であることは理解できました。
- ・授業より詳しく聞くことができて良かったです。

【Q2】「変貌する国際物流と舞鶴港の可能性」について

1. 内容はどうでしたか。

満足	やや満足	普通	やや不満	不満
18	5	0	1	0

- ・地域が港をきっかけに変わることを願い、自分にできることをしていきたいです。
- ・ロジスティックの重要性が分かりました。
- ・福知山にもバイオマス産業の集約結集ができないでしょうか。
- ・地域に大きな可能性を感じました。
- ・視点の捉え方が勉強になりました。
- ・舞鶴港のクルーズ船から福知山に人を呼び込むという発想がなかったです。

【Q3】福知山大学で今後「開講してほしい講座」「勉強してみたい・興味のあること」がありますか。

どんな講座があれば参加したいですか。ご意見をご記入ください。

- ・観光、教育、スポーツ、政治関係、旅行、TOEIC、日商簿記、経営学、会計、外国語、民俗学
多文化共生、移民関係、デザイン。
- ・地域づくりとこれからのインフラ整備。
- ・福知山の魅力、外から見た魅力を語ってもらえる講座。
- ・福知山の資源の具体的な磨き方を事例を交えて知りたいです。
- ・まちづくり・まちおこし。
- ・都会の大学にあるようなエクステンション講座。

- ・ブランド化、観光商品の売り方。
- ・富野先生の話が聞きたいです。
- ・「大丹波構想」昔から丹波地域として交流のあったこの地域において、売り出せる何かを議論する場。
- ・全国の田舎で、先進的な取り組みをしている地域やその取り組みを知りたいです。
- ・海外へ自身の商品の売り込み方。
- ・外国の方などを地元案内できるよう、文化歴史の知識と語学を学びたいです。

【Q4】 その他、ご意見やご感想等あればご自由にご記入ください。

- ・自分の専門とは異なる分野に興味を持つことができました。
- ・福知山に大学ができたので、若い人たちに北部地域における地方創生策について議論してほしいです。
- ・公立大学の学生の参加が少ないのが気になる。もっと参加して意見を述べてほしいです。
- ・いかに人気観光地から北近畿へ人を呼べるかが重要だと思います。

【Q5】 集計資料とさせていただきます、性別、年齢についてお伺いします。

1. 性別 男性 19名、女性 5名

2. 年齢	10代	20代	30代	40代	50代	60代	70代	80代
	3	2	1	9	7	0	2	0

3. お住まいの場所 市内 15名、市外 6名、不明 3名

【Q6】 この講座を何でお知りになりましたか？〈複数回答あり〉

ご案内	ホームページ	新聞	知人から	その他
8	2	4	8	2

【Q7】 講座を受講する際に参加しやすい時間帯はありますか？〈複数回答あり〉

平日午前	平日午後	平日夜間	土日午前	土日午後	土日夜間	その他
1	3	13	5	1	3	0

福知山公立大学公開講座 テーマ『公共経営』分野の理論と実践をお伝えします アンケート集計結果

第一部 「『みんな』でつくる地域の未来～総合計画とフューチャーデザイン～」

講師：福知山公立大学 地域経営学部地域経営学科 准教授 杉岡 秀紀

第二部 「魅力と活力の向上を目指したまちづくり ～景観を切り口に～」

講師：福知山公立大学 地域経営学部地域経営学科 教授 福島 貞道

【アンケート実施概要】

参加者数	31名
回答者数	21名
回収率	68%

【Q1】 「『みんな』でつくる地域の未来～総合計画とフューチャーデザイン～」について

1. 内容はどうでしたか。

満足	やや満足	普通	やや不満	不満
16	4	1	0	0

- ・大変分かりやすく、ポイントが掴みやすかったです。現実の情報が豊富で大変参考になりました。
- ・仮想将来を見据えた議論、とても重要だと思いました。与謝野町の事例の発表を期待します。
- ・総合計画とフューチャーデザインの必要性・進め方についてよく分かりました。ただペースが早く消化不良と感じました。
- ・フューチャーデザインについて、よく理解することができました。
- ・福知山の未来を考えたときに、住民として何ができるか何をすべきかについて聞いてみたいです。
- ・地域のことは地域で決めることの大切さを感じました。
- ・理論だけでなく、実践も含んでおられたところに説得力を感じました。課題解決のための手法に興味があったので、大変勉強になりました。
- ・意見には常に責任が伴うと考えます。次世代に何ができるのか勉強しました。
- ・テーマが興味がありそうでしたが、内容が思っていたのと違いました。
- ・市民がまちづくりにどんどん参加する仕組みを作っていきたいとなりました。
- ・フューチャーデザインで市町村の総合計画を立てていくことは若者もやる気を出せそうなので参考になりました。
- ・テンポの速さについていくのが大変でしたが、「地方自治」の重要性、将来を見通した総合計画を策定する必要性がよくわかりました。

【Q2】「魅力と活力の向上を目指したまちづくり ～景観を切り口に～」について

1. 内容はどうか。

満足	やや満足	普通	やや不満	不満	不明
11	6	1	0	0	3

- ・標高規制の話が興味深かったです。
- ・景観政策に対する熱意が伝わってきたと同時に、政策・組織・人材の重要性を再認識できました。
- ・福知山の眺望と景観についてもっと聞きたいです。景観は都市の活力を生み出すとよく分かりました。
- ・高さ制限の建物や看板等が無くなっていますが、まだまだこれからだと思います。取り組んでいることは本当に感心しました。
- ・福知山の景観政策のあり方などについても聞いてみたいです。
- ・京都市の具体例をもとに、現場ではどのように活用されているのかが分かり、満足でした。
- ・新都市景観法等の政策デザインの話は他のことにも応用がきくと思い、興味深かったです。そのあたりのパワーポイントが資料として欲しかったです。
- ・今回の話は、福知山市には直接活用できないので、もう少し法令のところに時間を割いてほしかったと感じました。
- ・実際に写真を見ながらの説明でわかりやすかったです。
- ・京都市に30年住んでいたのに、景観の移り変わりの影にこんなストーリー7があったのかと感慨深かったです。福知山も今が変革の時と感じました。
- ・景観を守る大切さを理解できました。福知山市の守っていくべき景観について、もっと話を深めていただきたかったです。
- ・景観の保全、再生、創造を進める政策を進めていくこと、都市の活力を生み出すことが必要という観点が必要であることがわかりました。

【Q3】福知山大学で今後「開講してほしい講座」「勉強してみたい・興味のあること」がありますか。どんな講座があれば参加したいですか。ご意見をご記入ください。

- ・北近畿における活力あるまちづくりの具体策など。
- ・パラレル・キャリアについて。
- ・少子高齢化又、都市部のドーナツ化現象など、いろいろ未来に向けて課題対策について。
- ・企業経営（中小企業・海外企業）について。
- ・観光。
- ・インバウンド関連の講座。
- ・公立大の学生の意見や思いが聴ける講座。
- ・地元の特産物を全国や海外に知ってもらえるようなアピールの仕方。
- ・ブランド力。
- ・商業デザイン・物づくりブランドとしての売り方に関することを知りたいです。
- ・起業に興味があり、そのための人間関係の築き方、コミュニケーション力について。
- ・スポーツや健康についての講座。
- ・「地方分権」のよりよい方向性について。
- ・中高生対象の講座を増やしていただきたいです。
- ・社会起業家を呼んでほしいです。

【Q4】 その他、ご意見やご感想等あればご自由にご記入ください。

- ・終了時刻はなるべく守っていただきたいです。
- ・2講座とも、とてもいい講座を聴けて良かったです。
- ・話すスピードが速く、聞き取れないことが何点ありました。もう少しゆっくり話して欲しいです。
- ・福知山公立大学の教員に関しては、世代の隔たりを感じる人が多いです。浮世離れた先生ではなく、地域住民とコミュニケーションをとれる先生が増えることを願っています。
- ・学生の参加が少ないのが気になります。
- ・18：30という時間設定のおかげで、仕事が終わってから参加できるのがよいと思いました。

【Q5】 集計資料とさせていただきます、性別、年齢についてお伺いします。

1. 性別 男性 12名、女性 6名、不明 3名

2. 年齢

10代	20代	30代	40代	50代	60代	70代	80代
2	3	3	3	7	2	1	0

3. お住まいの場所 市内 15名、市外 2名（朝来、綾部）、不明 4名

【Q6】 この講座を何でお知りになりましたか？〈複数回答あり〉

ちらし	ホームページ	新聞	知人から	その他
9	5	3	1	4

【Q7】 講座を受講する際に参加しやすい時間帯はありますか？〈複数回答あり〉

平日午前	平日午後	平日夜間	土日午前	土日午後	土日夜間	その他
	3	16	4	3	2	1

福知山公立大学公開講座
 テーマ『観光経営』分野の理論と実践をお伝えします
 アンケート集計結果

第一部「天職のヒントを探す旅～天職観光の時代～」

講師：福知山公立大学 地域経営学部地域経営学科 特任准教授 塩見 直紀

第二部「訪日客を受け入れる農家民宿の経営」

講師：福知山公立大学 地域経営学部医療福祉経営学科 助教 張 明軍

【アンケート実施概要】

参加者数	34名
回答者数	23名
回収率	68%

【Q1】「『みんな』でつくる地域の未来～総合計画とフューチャーデザイン～」について

1. 内容はどうでしたか。

満足	やや満足	普通	やや不満	不満
11	6	6	0	0

- ・いつも言葉を拾わせていただき、自分の生活の中に浸透させています。綾部市民として、直紀先生の存在は大切だと思います。
- ・色々なヒントを与えてもらいました。
- ・福知山に来られる人は単なる観光ではなく、旅として美味しいものを食べたい、人とのふれあいを求めて、色々な経験値を求めて光秀についてもっと詳しく知りたいなどいろいろなものを求めて来られていること、天職観光であることがよく分かりました。
- ・福知山 A to Z も色々作ってみると面白いと思いました。
- ・コンセプトの重要さを学びました。
- ・『自らの天職のヒントを探す旅』として、もっと深さがほしい気がしました。
- ・コンセプトの説明にある一定の理解を得ました。説明の中で具体的なものの提示が欲しかったです。
- ・パワーポイントの資料（スライドの資料）がほしかったです。
- ・テーマはすごくいいと思います。

【Q2】「訪日客を受け入れる農家民宿の経営」について

1. 内容はどうでしたか。

満足	やや満足	普通	やや不満	不満	不明
9	5	7	0	0	2

- ・綾部で民宿をされている友人に、今日のお話をお伝えしたいと思いました。
- ・石川県の農家民宿経営のスキームがわかりやすく良かったです。
- ・福知山にも農家民宿ができれば良いと思います。
- ・述べさせていただきましたが、組織的に大きくなり、小学生、中学生の受入れ、外国の生徒との交流まで行えるようになれば嬉しいです。
- ・具体的でわかりやすかったです。
- ・農家民宿の事例がわかりやすかったです。
- ・大江町では日本家屋を対象に農業体験をともなった行事をされているが、旧福知山市や三和町などでは

地域の受入体制が十分ではないように思います。訪日観光客となれば、もっと難しいのではないのでしょうか。

- ・少し早口で聞きづらかったです。
- ・地方の農家に興味を示してくれるという事は大変いいことだと思います。都会のにぎやかさ、便利さが日本のイメージとされていると思うのですが、地方のシンプルな生活を知ってもらうことがいいなと思いました。

【Q3】 福知山大学で今後「開講してほしい講座」「勉強してみたい・興味のあること」がありますか。どんな講座があれば参加したいですか。ご意見をご記入ください。

- ・女性をターゲットとした講座。
- ・観光の勉強がしたかったので今回とても満足です。
- ・ツーリズムの作りかた。
- ・Iターン、Uターンの成功例と失敗例を紹介してほしいです。
- ・英会話講座。
- ・地域資源の活かし方、資源がない場合の探し方や作り方。
- ・福知山の地域資源を生かして創業した方の話。
- ・SNS を利用した情報発信について。
- ・地方的なものも大切だが、インターナショナルな事象。今日的な問題も学びたいです。
- ・「地域づくりについて」「インバウンド受入のための簡単外国語講座」。
- ・アートを通して、福知山を盛り上げる活気づける幸せな町づくり。

【Q4】 その他、ご意見やご感想等あればご自由にご記入ください。

- ・AtoZの本良いです。どんどん福知山をアピールしてほしいです。
- ・都会は周囲に大学がたくさんあり、気に入った公開講座を受けることができるが、福知山には福知山公立大学しかなく、勉強する機会が限られているので、このような勉強の機会を続けてほしいです。
- ・会社向けの講座があれば→京都北都信用金庫さんから問い合わせがありました。張先生が公立大に来て下さり、中国からの留学生は大変心強く思っているようです。ご活躍を心からお祈りしています。
- ・このように大学の門戸を開いて市民に講義をもたれることは大変嬉しく思います。

【Q5】 集計資料とさせていただきます。性別、年齢についてお伺いします。

1. 性別 男性 13 女性 10

2. 年齢

10代	20代	30代	40代	50代	60代	70代	80代
1	1	0	10	4	3	3	1

3. お住まいの場所 市内 19名 市外 4名（綾部・朝来）

【Q6】 この講座を何でお知りになりましたか？<複数回答あり>

ご案内	ホームページ	新聞	知人から	その他
9	3	6	2	3

【Q7】 講座を受講する際に参加しやすい時間帯はありますか？<複数回答あり>

平日午前	平日午後	平日夜間	土日午前	土日午後	土日夜間	その他
1	4	14	2	4	3	1

福知山公立大学公開講座
テーマ『医療福祉経営』分野の理論と実践をお伝えします
アンケート集計結果

第一部「日本の介護保険を世界に～WHO(世界保健機関)プロジェクトの目指すもの～」

講師：福知山公立大学 地域経営学部医療福祉経営学科 教授 岡本 悦司

第二部「医療情報分野の標準化について」

講師：福知山公立大学 地域経営学部医療福祉経営学科 准教授 佐藤 恵

【アンケート実施概要】

参加者数	21名
回答者数	9名
回収率	43%

【Q1】「日本の介護保険を世界に～WHO(世界保健機関)プロジェクトの目指すもの～」について

1. 内容はどうか。

満足	やや満足	普通	やや不満	不満
3	4	2	0	0

- ・レセプトに反映されないケアマネージャーの支援時間、内容の研究であるのでしょうか？
- ・介護の尺度について、国際化の重要性を感じました。

【Q2】「医療情報分野の標準化」について

1. 内容はどうか。

満足	やや満足	普通	やや不満	不満
3	4	2	0	0

- ・一般にも分かりやすくご説明をいただけ、DPCもよくわかりました。
- ・標準化について初めて勉強しました。面白かったです。

【Q3】福知山大学で今後「開講してほしい講座」「勉強してみたい・興味のあること」がありますか。

どんな講座があれば参加したいですか。ご意見をご記入ください。

- ・「地域包括ケアシステム」「介護保険」「認知症ケア」。
- ・資格講座。
- ・スマートフォンの可能性(健康づくり、介護分野で)。

【Q4】その他、ご意見やご感想等あればご自由にご記入ください。

- ・公立大生の参加があまり見られないのが残念です。
- ・わかりやすく、興味深かったです。

【Q5】集計資料とさせて頂きたく、性別、年齢についてお伺いします。

1. 性別 男性 4 女性 4 不明 1

2. 年齢

10代	20代	30代	40代	50代	60代	70代	80代
0	1	0	4	2	1	1	0

3. お住まいの場所 市内 5名 市外 3名 (丹後市) 不明 1

【Q6】この講座を何でお知りになりましたか?<複数回答あり>

ちらし	ホームページ	新聞	知人から	その他
1	1	1	1	5

【Q7】講座を受講する際に参加しやすい時間帯はありますか?<複数回答あり>

平日午前	平日午後	平日夜間	土日午前	土日午後	土日夜間	その他
0	0	8	1	1	1	0

福知山公立大学公開講座
テーマ『教養』分野の理論と実践をお伝えします
「マスメディアの現実～拡張現実～」アンケート集計結果

講 師：ふくちやま公立大学地域経営学部医療福祉経営学科

准教授 エリック・チャールズ・ハーキンソン

【アンケート実施概要】

参加者数	26人
回答者数	14人
回収率	54%

【Q1】「マスメディアの未来～拡張現実～」について

1. 内容はどうか。

満足	やや満足	普通	やや不満	不満	記載なし
9	3	0	0	0	2

- ・次から次と新しい技術の進歩におどろいています。
- ・ARのことがよくわかりました。興味深い内容でした。英語の授業が良かったです。
- ・AR自体知らなかったのですが、こういうことができるということを知れたこと、他国の文化を知れたことなど楽しめました。
- ・デモンストレーションが面白かったです。
- ・ARを使って様々な事に活用できることを知りました。
- ・頭はARが分からなかったが体験で少し分かったような気がします。

【Q2】福知山大学で今後「開講してほしい講座」「勉強してみたい・興味のあること」がありますか。どんな講座があれば参加したいですか。ご意見をご記入ください。

- ・英語の授業、経営学の授業。
- ・大江山とか地元の観光地、福知山城等、歴史的なこと。
- ・映像に関するもの（編集方法や最新技術）。
- ・ネット社会に流れているフェイクニュースと真実のニュースの見分け方について学びたいです。

【Q3】その他、ご意見やご感想等あればご自由にご記入ください。

- ・地域の景観を地域外の人に知らせて観光などにつなげられないでしょうか。
- ・大学のHP をときどき見るようにします。関心のある講座があればこれからも参加したいと思います。
- ・もっと学生が参加されたらと思います。学生の意見を聞きたいです。

【Q4】 集計資料とさせていただきます。性別、年齢についてお伺いします。

1. 性別 男性 11名 女性 3名 不明 0

2. 年齢

10代	20代	30代	40代	50代	60代	70代	80代
1	3	0	2	3	3	1	1

3. お住まいの場所 市内 10名 市外 3名(京丹波市・舞鶴市) 不明 1

【Q5】 この講座を何でお知りになりましたか?<複数回答あり>

ちらし	ホームページ	新聞	知人から	その他
6	2	5	1	0

【Q6】 講座を受講する際に参加しやすい時間帯はありますか?<複数回答あり>

平日午前	平日午後	平日夜間	土日午前	土日午後	土日夜間	その他
3	1	6	0	2	1	0

福知山公立大学子ども・若者学び支援事業 美しい宇宙のことをもっと知ろう! アンケート集計結果

【アンケート実施概要】

参加者数	130名(保護者 52)
回答者数	32名
回収率	62%

【Q1】 内容はどうでしたか。

満足	やや満足	普通	やや不満	不満	不明
11	7	8	1	1	4

- ・少し宇宙のことがわかりました。
- ・子どもの宇宙に対する興味のきっかけになればと思い参加しました。続きの講座を期待します。
- ・小学生、低学年には少し難しかったです。天文学の考え方がわかり面白かったです。
- ・あまり天文の事を知らない人でも興味がわき、色々な事を知ることができました。
- ・難しい中にも何か印象に残っていると思うので将来が楽しみです。
- ・ハッブルの写真が見れて良かったです。子供達も宇宙に興味を持てたように思います。
- ・美しい写真や色々な話が聞けて、宇宙のことがよくわかりました。私は楽しく聞かせていただきましたが、低学年の子どもには少し難しかったようです。

【Q2】 引率の方の性別と年代、お子様の学年

1. 性別 男性 7 女性 23 不明 2

2. お子様の学年<複数回答あり>

小1	小2	小3	小4	小5	小6	中1	中2	中3
10	8	7	9	1	0	4	3	0

【Q3】 福知山大学で今後「開講してほしい講座」「勉強してみたい・興味のあること」がありますか。どんな講座があれば参加したいですか。ご意見をご記入ください。

- ・理科系の実験など、小学校ではなかなかする機会がないので、色々と体験ができる講座を受けたいです。
- ・星が大好きなので天文学についての講座をしていただけると嬉しいです。
- ・研究体験型講座、プログラミング教室。
- ・もう少し簡単な星座の事について。教科書に載っている内容にプラスαの先生の知識をおりませた講座が嬉しいです。
- ・社会福祉・医療系。

【Q4】 その他、ご意見やご感想等あればご自由にご記入ください。

- ・貴重な話が聞け、参加してみて良かったです。
- ・メールで申し込みできたのは良かったです。
- ・実際に星の観察をする場合以外ならば休日の日中などに開催してもらえたら嬉しいです。

平成 29 年度 第 2 回 福知山公立大学 地域創生セミナー
「学生が参画する多世代交流型自治活動を考える
～高齢者宅やシェアハウスに暮らし地域とつながる」アンケート

講 師 菊地 吉信 氏（福井大学大学院工学研究科 准教授）

話題提供者 高橋 健太 氏（株式会社 KOHBU 共同経営者 / ハウス事業部マネージャー）

話題提供者 谷口 知弘 （福知山公立大学地域経営学部地域経営学科 教授）

【アンケート実施概要】

参加者数	19名
回答者数	15名
回収率	79%

【Q1】 第一部 講演「異世代ホームシェア事業展開の可能性～福井大学と地域の取り組みから」について、内容はどうでしたか。

満足	やや満足	普通	やや不満	不満
11	3	1	0	0

- ・ソリデールの実際の事例がわかりました。
- ・実際の映像も見れて、より分かりやすかったです。
- ・内容が濃すぎて時間が足りないのが不満でしたが今後も発展する可能性のある事業であと考えさせられました。
- ・ホームシェアリングだけではなく、老人ホームのある地に大学も住み交流するするということが面白いと思いました。
- ・受け入れをされた男性の期間が終わって、最後に分かれるときの姿をみると、大きな意義を感じました。
- ・異世代ホームシェアについて学生と高齢者の意欲がわかってよかったです。

【Q2】 第二部 ワークショップ「福知山での学生の住まい方と地域社会の関わりを考える」について、内容はどうでしたか

満足	やや満足	普通	やや不満	不満
9	3	0	3	0

- ・シェアハウスの取り組みが広がれば良いなと思います。
- ・色々な意見が聞けて、色々考えさせられました。
- ・福知山では下宿屋は難しいと思います。
- ・私自身も地位社会との関わりの大切さも実感しました。
- ・これから学生が地域に関わる態度がわかってよかったです。

【Q3】 福知山大学で今後「開講してほしい講座」「勉強してみたい・興味のあること」がありますか。どんな講座があれば参加したいですか。ご意見をご記入ください。

- ・福知山の文化、歴史。
- ・高齢者、中高年を対象に、「終活」について、「経済面」「精神面」「地域面」で教えていただきたいです。
- ・地域と大学で、公共を担う住民サービスの可能性について。
- ・公共経営（協働、役割分担）。

【Q4】 その他、ご意見やご感想等あればご自由にご記入ください。

- ・住民の理解をどう得るかの仕掛けをどうするのか。
- ・住民、自治会、学生、大学、行政等の役割のすみわけ。

【Q5】 集計資料とさせていただきます、性別、年齢についてお伺いします。

1. 性別 男性 10名 女性 5名 不明 0

2. 年齢

10代	20代	30代	40代	50代	60代	70代	80代
3	3	1	1	4	2	1	0

3. お住まいの場所 市内 10名 市外 1名（京都市） 不明 4

【Q6】 この講座を何でお知りになりましたか？<複数回答あり>

ご案内	ホームページ	新聞	知人から	その他
5	1	0	4	4

【Q7】 講座を受講する際に参加しやすい時間帯はありますか？<複数回答あり>

平日午前	平日午後	平日夜間	土日午前	土日午後	土日夜間	その他
0	0	10	4	2	1	1

平成 29 年度 第 3 回 福知山公立大学 地域創生セミナー
 「高齢ドライバーの交通事故の実態と運転行動
 ～運転免許返納問題をめぐって～」アンケート
 講師 蓮花 一己 氏（帝塚山大学 学長）

【アンケート実施概要】

参加者数	29名
回答者数	17名
回収率	59%

【Q1】 第一部 講演「高齢ドライバーの交通事故の実態と運転行動」について、内容はどうでしたか。

満足	やや満足	普通	やや不満	不満
8	6	3	0	0

- ・体系的に「高齢者の事故」や「免許返納」の事を知ることができて良かったです。
- ・高齢者の免許返納を決める判断基準が多様で、簡単に決められることではないと感じました。
- ・高齢者の事故率が高いわけではないことが分かりました。
- ・マスコミや色々な報道が事実と異なるということが理解できました。
- ・免許返納の必要性について改めて考えさせられました。
- ・いろいろな統計のグラフで正しい数値を知ることによって学習の方法って大切だと感じました。

【Q2】 福知山大学で今後「開講してほしい講座」「勉強してみたい・興味のあること」がありますか。どんな講座があれば参加したいですか。ご意見をご記入ください。

- ・地元で起業された方のお話。
- ・スポーツに関するコーチングについて。
- ・日本人の事について勉強したいです。
- ・時事の技術的問題とその技術的説明、自動車の無人運転など。

【Q3】 その他、ご意見やご感想等あればご自由にご記入ください。

- ・免許返納前の教育が大事だとよく分かりました。
- ・ヒューマンエラーの具体的な例も聞いてみたかったです。

【Q4】 集計資料とさせていただきます、性別、年齢についてお伺いします。

1. 性別 男性 11名 女性 4名 不明 2

2. 年齢

10代	20代	30代	40代	50代	60代	70代	80代
2	1	1	3	1	4	3	2

3. お住まいの場所 市内 13名 市外 2名(京都市・与謝野町) 不明 2名

【Q5】 この講座を何でお知りになりましたか?<複数回答あり>

ご案内	ホームページ	新聞	知人から	その他
6	3	3	4	0

【Q6】 講座を受講する際に参加しやすい時間帯はありますか?<複数回答あり>

平日午前	平日午後	平日夜間	土日午前	土日午後	土日夜間	その他
1	3	2	5	8	0	0

平成 29 年度 第 4 回 福知山公立大学 地域創生セミナー
「自然災害とオペレーションズ・リサーチ (OR)」アンケート

講師 大山 達雄 氏 (政策研究大学院大学名誉教授、日本 OR 学会長)

【アンケート実施概要】

参加者数	18名
回答者数	7名
回収率	39%

【Q1】講演「自然災害とオペレーションズ・リサーチ (OR)」について、内容はどうでしたか。

満足	やや満足	普通	やや不満	不満
4	1	2	0	0

・包括的講義、公共政策分野への OR の可能性、防災減災への意義について考えさせられました。

【Q2】福知山大学で今後「開講してほしい講座」「勉強してみたい・興味のあること」がありますか。どんな講座があれば参加したいですか。ご意見をご記入ください。

- ・福祉関係。
- ・地域における産業振興、雇用創出について。
- ・各種の白書等の説明会を、それをベースにした北近畿地域の対応等の講座。
- ・特にありませんが、セミナーを開催していただければ、できるだけ参加して勉強したいです。

【Q3】その他、ご意見やご感想等あればご自由にご記入ください。

- ・今回の講座は自分は理解することが困難でした。(高度すぎました)

【Q4】集計資料とさせて頂きたく、性別、年齢についてお伺いします。

- 性別 男性 6 名 女性 0 名 不明 1
- 年齢

10代	20代	30代	40代	50代	60代	70代	80代	不明
0	1	0	0	1	3	1	0	1

- お住まいの場所 市内 5 名 市外 0 名 不明 2 名

【Q5】この講座を何でお知りになりましたか?<複数回答あり>

ご案内	ホームページ	新聞	知人から	その他
1	1	2	1	1

【Q6】講座を受講する際に参加しやすい時間帯はありますか?<複数回答あり>

平日午前	平日午後	平日夜間	土日午前	土日午後	土日夜間	その他
0	2	1	1	4	0	0

平成 29 年度 社会人キャリア支援企画
まちづくりの理論と手法～知恵を集める伝える方法
第 1 回 協働型まちづくりとワークショップ
～知恵を集め協働で未来を創造する手法「ワークショップ」とは
アンケート

講 師 谷口 知弘 氏 (福知山公立大学 地域経営学部 教授)

【アンケート実施概要】

参加者数	31名
回答者数	23名
回収率	74%

【Q1】講演「協働型まちづくりとワークショップ」について、内容はどうでしたか。

満足	やや満足	普通	やや不満	不満
18	5	0	0	0

- ・ワークショップのあり方、その場のつくり方などについて、良い方法を教えてもらいました。
- ・机やモニターに向かって受けるだけでなく、実際に体を使って動くことで身をもって体験し実感できました。場の雰囲気作りはさすがと感心しました。
- ・一方的な講義でなく手と頭と口を動かしたことはとても新鮮でした。
- ・問題点は何か自己本位にならずにチームワーク例を体験させていただきました。
- ・会議のあり方に疑問をもつことが出来ました。何をするにでも入口で全然違う結果になることが分かりました。
- ・ワークショップの「デザイン」の大切さを感じました。とても中身の濃い 2 時間でした。ファシリテーターの動きや役割についてもお聞きしたかったです。
- ・みんなで作り上げることの楽しさ、大切な事を感じました。

【Q2】福知山大学で今後「開講してほしい講座」「勉強してみたい・興味のあること」がありますか。どんな講座があれば参加したいですか。ご意見をご記入ください。

- ・ファシリテーター、ファシリテーショングラフィック、まちづくり。
- ・今日のような堅苦しくない楽しい講座。
- ・市民参加、地域にかかわるプログラム。
- ・学生と話し合える講座を希望します。
- ・地域をアピールするマーケティング。
- ・地域振興の理論や公共施策の理論や手法。
- ・地域の歴史をほりおこす勉強会。
- ・市民の側からの協働の起こし方。

【Q3】その他、ご意見やご感想等あればご自由にご記入ください。

- ・多世代でやれるワークショップは楽しく勉強になりました。
- ・学生の参加がもっとあればと考えています。福知山出身の学生、福知山以外出身の学生の意見、思い、を知りたいです。創成大、成美大のころとは大学の姿勢が全然違うと感じています。
- ・住民一人一人が何が出来るかを考える場のきっかけとなりました。2 回目、3 回目も参加できるようにしたいです。

【Q4】 集計資料とさせていただきます。性別、年齢についてお伺いします。

1. 性別 男性 17 名 女性 6 名 不明 0
2. 年齢

10代	20代	30代	40代	50代	60代	70代	80代
2	2	4	9	3	2	1	0

3. お住まいの場所 市内 17 名 市外 5 名 (南丹市、京都市、舞鶴市、三重) 不明 1 名

【Q5】 この講座を何でお知りになりましたか?<複数回答あり>

ご案内	ホームページ	新聞	知人から	その他
11	3	0	4	5

その他 (チラシ・Facebook・谷口先生から)

【Q6】 講座を受講する際に参加しやすい時間帯はありますか?<複数回答あり>

平日午前	平日午後	平日夜間	土日午前	土日午後	土日夜間	その他
1	2	15	2	2	4	2

平成 29 年度 社会人キャリア支援企画
まちづくりの理論と手法～知恵を集める伝える方法
第2回 協働型まちづくりとワークショップ
～知恵を集め協働で未来を創造する手法「ワークショップ」とは
アンケート

講 師 篠原 幸子 氏 (NPO 法人場とつながりラボ home' s vi)

【アンケート実施概要】

参加者数	20名
回答者数	12名
回収率	60%

【Q1】 講演「協働の過程をわかりやすく楽しくする対話の見える化」について、内容はどうでしたか。

満足	やや満足	普通	やや不満	不満
6	5	0	1	0

- ・対話の重要性を再確認できました。
- ・なんとなく「こういうことが大切じゃないかな」と思っていたことが「こういうことは大切だ」と確認することができて良かったです。
- ・コミュニケーション下手で上手く伝えられないことが多い何かヒントが得られればと思ひみなさんの職場の例とか参考になりました。
- ・会議ではない協働の場づくりを知れて楽しかったです。

【Q2】 福知山大学で今後「開講してほしい講座」「勉強してみたい・興味のあること」がありますか。どんな講座があれば参加したいですか。ご意見をご記入ください。

- ・ビジネスについての勉強会。
- ・地域連携（様々な事で）地方活性化。
- ・北近畿のまちを考える場の講座。
- ・WSの手法、市民協働、公民連携、小規模多機能自治、イベント運営。
- ・引きこもりの支援など、社会的マイノリティへのアプローチなどまちづくりの視点で考えてみたいです。

【Q3】 その他、ご意見や感想等あればご自由にご記入ください。

- ・今日初めての参加で緊張しました。最後に自分の感想を上手く言えなくて残念でした。
- ・学生の参加が増えればと思います。話をされる先生の担当ゼミ生ばかりの参加なのではと感じています。

【Q4】 集計資料とさせて頂きたく、性別、年齢についてお伺いします。

1. 性別 男性 7名 女性 4名 不明 1

2. 年齢

10代	20代	30代	40代	50代	60代	70代	80代
0	2	1	5	2	1	1	0

3. お住まいの場所 市内 7名 市外 3名（南丹市、舞鶴市） 不明 2名

【Q5】 この講座を何でお知りになりましたか？<複数回答あり>

ご案内	ホームページ	新聞	知人から	その他
6	1	0	1	4

その他 (Facebook・DM)

【Q6】 講座を受講する際に参加しやすい時間帯はありますか？<複数回答あり>

平日午前	平日午後	平日夜間	土日午前	土日午後	土日夜間	その他
0	0	10	2	2	5	0

平成 29 年度 社会人キャリア支援企画
まちづくりの理論と手法～知恵を集める伝える方法
第 3 回 構想や思いを伝えるプレゼンテーションとプレゼンス
～聞き手の心に火をつける！プレゼンテーション術
アンケート

講 師 杉岡 秀紀 氏（福知山公立大学 地域経営学部 准教授）

【アンケート実施概要】

参加者数	21名
回答者数	17名
回収率	81%

【Q1】 講演「協働型まちづくりとワークショップ」について、内容はどうでしたか。

満足	やや満足	普通	やや不満	不満
17	0	0	0	0

- ・プレゼンテーションの本質って考えたことがなかったので「こういう事か!」と思って楽しかったです。
- ・すぐ実行できそうなことと難しいことがどちらもあって、少しずつ実行してみようかなと思えました。
- ・知ると知らないとは大違いだと思います。大変、有意義というか得した気分です。
- ・わかりやすく、心に響く内容で、また即実践できるとあって、価値の高い研修で、参加できて良かったです。
- ・伝えると伝わるの違いから入り、プレゼンについて納得するところがとても多く、最後にとてもわくわく出来ました。
- ・私はプレゼンが下手ですが、上手になりたいと思っています。今日からできることを取り組みたいと思いました。地域住民と専門職との会議では言葉づかいに気をつけたいと思います。
- ・プレゼンテーション術が学べてとても嬉しかったです。明日から一つでも二つでも実行していきたいです。
- ・分かりやすかったです。隣の人とディスカッションする時間も適切だったと思います。

【Q2】 福知山大学で今後「開講してほしい講座」「勉強してみたい・興味のあること」がありますか。どんな講座があれば参加したいですか。ご意見をご記入ください。

- ・公共政策や地域振興の理論。
- ・コミュニケーション論。
- ・まちのグッドデザイン。
- ・ファシリテーション、地域企業の方々と話せる機会。
- ・100年後の地方はどうなっているか。
- ・コミュニケーションのとり方。

【Q3】 その他、ご意見やご感想等あればご自由にご記入ください。

- ・こういう機会をいただきありがとうございました。
- ・方法を知って量をこなせば上達する!とのことばにとっても勇気づけられました。
- ・楽しい講座でした。コミュニケーション能力をきたえる良い参考になりました。
- ・とってわかりやすくて楽しかったです。

【Q4】 集計資料とさせていただきます、性別、年齢についてお伺いします。

1. 性別 男性 10名 女性 7名 不明 0

2. 年齢

10代	20代	30代	40代	50代	60代	70代	80代
0	1	2	8	4	1	1	0

3. お住まいの場所 市内 11名 市外 4名(南丹市 綾部市 舞鶴市) 不明 2名

【Q5】 この講座を何でお知りになりましたか?<複数回答あり>

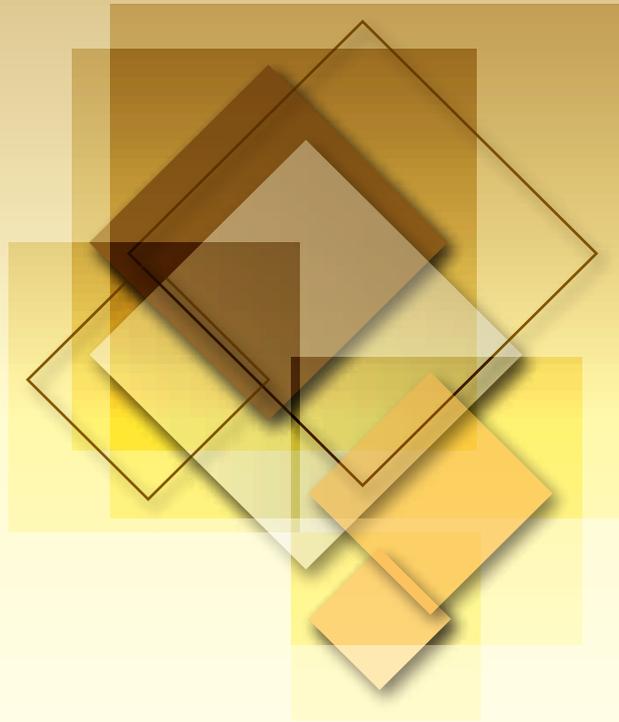
ご案内	ホームページ	新聞	知人から	その他
10	1	0	3	5

その他 (Facebook・SNS・DM)

【Q6】 講座を受講する際に参加しやすい時間帯はありますか?<複数回答あり>

平日午前	平日午後	平日夜間	土日午前	土日午後	土日夜間	その他
0	0	15	4	3	7	0





 福知山公立大学

Kita-re

〒620-0886 京都府福知山市字堀 3370

TEL 0773-24-7151 FAX 0773-24-7152 Mail kita-re@fukuchiyama.ac.jp

<http://www.fukuchiyama.ac.jp>